(175)
215946
1
昭和25年10月18日

秘

日露講和會議錄

略列

自明治三十八年八月九日
至明治三十八年九月五日

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

講和豫備會議録

日露兩國全權委員ハ「ポーツマス」談判ノ端ヲ啓キタル**明治三十八年八月九日**ノ會見ニ於テ左ノ諸問題ヲ討議シ雙方合意ヲ以テ之ヲ決定セリ

第一　會議ノ用語ニ關シテハ日本全權委員ヨリ提出ノ文書ニ付テハ英文ヲ以テ露國全權委員ヨリ提出ノ文書ニ付テハ佛文ヲ以テ本文トナスヘシ各會見ノ會議錄ハ單ニ討議ノ要領ノミヲ記載シ雙方ノ書記官(各三名トス)之ヲ作成シ其ノ後ノ會見ノ一ニ於テ兩國全權委員之ニ記名スヘシ而シテ若シ條約締結セラルルニ至ラハ該條約並其ノ附屬書類ハ英文及佛文ヲ以テ之ヲ作成シ佛文ヲ以テ本文トナスヘシ

第二　兩國全權委員ノ討議ハ絕對ニ之ヲ祕密ニ附スヘシ其ノ新聞紙ニ公表スヘキモノハ雙方ノ協議ヲ以テ案文ヲ作成スヘシ

第三　專門事項擔當隨員ハ會議ニ列セシメス其ノ意見ハ參考トシテ全權委員之ヲ徵スヘシ但シ雙方全權委員ニ於テ右隨員ヲ招クノ必要ヲ認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四　會議ハ通則トシテ毎日二回卽チ午前九時半ヨリ正午マテ及午後三時ヨリ五時半マテ開會スヘシ若シ一方ニ於テ休會期間ヲ右以上延長セムトスル場合ニハ豫メ協定ヲ要ス

明治三十八年八月十日「ポーツマス」ニ於テ本書二通ヲ作ル

小村壽太郎(記名)

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

講和會議錄第一號

明治三十八年八月十日ノ會議

午前十時十五分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プラシソン」氏「コロストヴエッツ」氏「ナボコフ」氏

兩國全權委員ハ會議ノ豫備事項ニ關シ八月九日ノ會見ニ於テ爲シタル協定ニ係ル書類ニ記名セリ

尋テ兩國全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ提示セシニ露國全權委員ハ日本全權委任狀ニ關シ左ノ二點ニ付日本全權委員ノ注意ヲ喚起セリ

一　露國全權委員ニ交付セラレタル日本全權委任狀英譯謄本ニハ其ノ謄本及翻譯ノ正確ナルコトヲ證明スヘキ何等記名ナキコト

此點ニ關シ小村男爵ハ日本國ニ於テハ全權委任狀ノ譯文ヲ證明セサル慣例ナルヲ說示シ且若シ露國全權委員之ヲ希望スルニ於テハ同男爵及高平氏ハ右謄本ニ添フルニ該譯文ノ原文ニ該當スルコトヲ證明スルノ記名ヲ以テスルヲ欣諾スヘキ旨ヲ陳述セリ而シ

高平小五郎（記名）

セルジ、ウヰッテ（記名）

ローゼン（記名）

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

テ日本國兩全權委員ハ右ノ記名ヲ爲セリ

二一日本全權委任狀中約款ヲ批准スル前其ノ實質及形式共ニ之ヲ審査スヘシトノ主權者ノ權能ニ關スル字句ハ露國全權委任狀中ノ之ニ對應スル字句ト根本的ニ相違セルコト

此點ニ關シ露國全權委員ハ別紙寫ノ覺書(附屬書第一號)ヲ日本全權委員ニ交付シ雙方文言ノ相違セルニ拘ラス露西亞國皇帝陛下ノ記名アラセラレタル全權委任狀ハ日本全權委員ノ提示シタル委任狀ト同一ノ範圍ニ之ヲ解釋スヘキ旨ヲ聲明セリ

小村男爵ハ「ウヰッテ」氏ニ對シ右日本全權委任狀ハ從來日本國ニ於テ如何ニ重要ナル條約ヲ締結スル場合ニ於テモ付與セラレタルモノト同樣ナルコトヲ聲明シ且露國全權委員ノ今般締結スルコトアルヘキ條約モ其ノ效力ヲ生スル爲ニハ皇帝ノ批准ヲ要スルニアラサルヤヲ同氏ニ問ヒタルニ「ウヰッテ」氏ハ然リト答ヘタルニ付小村男爵ハ皇帝ノ批准ヲ得ル迄ニ就テハ彼我全權委員權限ノ範圍ハ同一ナルコトヲ說示セリ

右意見交換ノ後全權委任狀ニ關スル問題ハ確定セシモノト承認セラレタリ

愈緊要問題ノ討議ニ移ラムトスルニ臨ミ兩國全權委員ハ講和條件ニ直接關係ナキ問題ノ討議ハ之ヲ避ケ以テ滿足ナル解決ニ到達スル爲最捷徑ヲ求メ互ニ充分胸襟ヲ披瀝シ以テ事ヲ議セムトスルノ誠實ナル希望ヲ共ニスル旨ヲ表明セリ

之カ爲日本全權委員ハ書面ヲ以テ講和條件ヲ提示シ露國全權委員之ヲ愼重ニ査覈シタル上是亦書面ヲ以テ回答ヲ提出スルコトニ一致セリ

日本全權委員ノ提出スル講和條件ハ條項ヲ分チ記載シアルニ付講和會議ハ露國全權委員ノ回答ニ接シタル上逐條討議ノ方法ヲ採ルヘキコトニ同シク一致セリ

此ニ於テ日本全權委員ハ英文ヲ以テ認メタル講和條件(附屬書第二號)ニ佛譯文(附屬書第三號)ヲ添ヘ露國全權委員ニ交付シ右佛譯文ハ急速ニ作成セシモノニシテ多少ノ不正確ナル點ナキヲ保セサレハ曩ニモ協定セシ如ク英文ヲ以テ本文トナスヘキモノナルコトヲ附言セリ

會議ヲ終ルニ臨ミ兩國全權委員ハ別紙新聞通知案附屬書第四號)ヲ作成セリ

會議ハ露國回答ノ調製セラルル迄休止スルコトトシ午前十一時五十分ヲ以テ散會セリ

小村壽太郎(記名)

高平小五郎(記名)

セルジ、ウヰッテ(記名)

ロ ー ゼ ン(記名)

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

附屬書第一號

「ポーツマス」一千九百五年七月二十八日
八月十日

下名ノ露西亞國皇帝陛下ノ全權委員ハ左記ノ點ニ關シ日本國皇帝陛下ノ全權委員閣下ノ愼重ナル注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ有ス

日本國皇帝陛下ノ全權委員閣下ノ全權委任狀ヲ熟閱シ之ヲ露西亞國皇帝陛下ノ記名ア
ラセラレタル全權委任狀ト比較シタルニ雙方ノ間ニ一ノ重要ナル相違アルヲ確メタリ」
露西亞國皇帝陛下ハ其ノ全權委任狀中ニ露西亞國全權委員ノ約定若クハ記名セシモノ
ハ總テ之ヲ嘉納確認スヘキコトヲ誓約アラセラレタルニ日本國全權委員ノ全權委任狀
英譯文ニハ「全權委員ノ議定スル所ノ各條項ハ朕親シク檢閱ヲ加ヘ其ノ妥善ナルヲ認メ
テ後之ヲ批准スヘシ」トアリ

雙方全權委任狀文ニ右ノ重要ナル相違アルヲ認ムルニ付下名ハ日本國全權委員閣下ニ
對シ我皇帝陛下ノ記名アラセラレタル全權委任狀ハ日本國全權委員ノ提示セラレタル
全權委任狀ト同一ノ範圍ニ之ヲ解釋スヘキコトヲ宣言スルノ止ムヲ得サルヲ見ル

セルジ、ウ 井ッテ（記名）

ロ ー ゼ ン（記名）

日本國全權委員閣下

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

第一　露西亞國ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干渉セサルコトヲ約スルコト

第二　露西亞國ハ一定ノ期限內ニ全然滿洲ヨリ撤兵シ且同地方ニ於テ淸國ノ主權ヲ侵害シ若ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若ハ專屬的讓與及免許ヲ拋棄スヘキ旨ヲ約スルコト

第三　日本國ハ改革及善政ノ保障ノ下ニ其ノ占領中ニ屬スル滿洲全部ヲ擧ケテ淸國ニ還附スヘキ旨ヲ約スルコト但シ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ハ此ノ限ニ在ラサルコト

第四　日本國及露西亞國ハ淸國カ滿洲ノ商工業ヲ發達セシメムカ爲列國ニ共通スル一般ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙セサルコトヲ互ニ約スルコト

第五　薩哈嗹島及之ニ附屬スル諸島嶼並公共營造物及財產ハ總テ日本國ニ讓與セラルヘキコト

第六　旅順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スルモノトシテ露西亞國カ淸國ヨリ得タル一切ノ權利、特權讓與及免許並一切ノ公共營造物及財產ハ之ヲ日本國ニ移轉讓渡セラルヘキコト

第七　哈爾賓旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並之ニ附屬スル一切ノ權利、特權及財產

及該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲ニ經營セラルル一切ノ炭坑ハ何等ノ債務及負擔ヲ伴ハシメスシテ露西亞國ヨリ之ヲ日本國ニ移轉讓渡スヘキコト

第八　滿洲橫貫鐵道ハ其ノ敷設ノ基ク特許條件ニ遵ヒ且商工業ノ目的ニ限リ之ヲ使用スルノ條件ヲ以テ露西亞國之ヲ保持經營スルコト

第九　露西亞國ハ戰爭ノ實費ヲ日本國ニ拂戾スヘシ其金額並支拂ノ時期及方法ハ雙方ノ合意ヲ以テ之ヲ定ムルコト

第十　戰鬪中損害ヲ被フリ爲ニ中立港ニ避難シ抑留セラレタル露西亞國軍艦ハ總テ正當捕獲物トシテ之ヲ日本國ニ交付スヘキコト

第十一　露西亞國ハ極東水上ニ於ケル其ノ海軍力ヲ制限スルヲ約スルコト

第十二　露西亞國ハ日本海、「オコーツク」海及「ベーリング」海ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸、灣、港、入江及河川ニ於テ充分ナル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與スヘキコト

附屬書第三號

附屬書第二號ト同文（附屬書第二號英文ノ佛譯ナリ）

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

附屬書第四號

千九百五年八月十日ノ會議ニ於テ全權委任狀ノ問題ハ解決セラレ此點ニ付テハ最早困難ヲ存セス次ニ日本全權委員ハ講和條件ヲ書面ニ認メ露國全權委員ニ交付セリ露國全權委員ハ直チニ右書類ノ攻究ニ著手シ可成速ニ書面ヲ以テ回答スルコトトシ會議ハ該回答ノ時マテ休會セラルヘシ

講和會議錄第二號

明治三十八年八月十二日ノ會議
午前九時四十五分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏
落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「コロストヴェッツ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プランソン」氏「ナボコフ」氏

兩國全權委員ハ前回即チ八月十日會議ノ會議錄ニ記名ヲナセリ

次ニ「ウヰッテ」氏ハ前回ノ會議ニ於テ日本全權委員ヨリ提出セラレタル講和條件ニ對スル露國全權委員ノ回答書ヲ小村男爵ニ交付セリ該回答書ハ佛文ヲ以テ成リ茲ニ其ノ寫ヲ添付セリ(附屬書第一號)

日本全權委員ノ請求ニヨリ會議ハ一時休止セラレ日本全權委員ニ於テ右露國文書ノ閱讀ヲ經講和條件ノ逐條討議ニ移ル準備成リタルコトヲ露國全權委員ニ通知シタル上之ヲ再開スルコトニ一決セリ

小村男爵ハ講和談判ニ關スル新聞紙上ノ或記事ニ關シ「ウヰッテ」氏ノ注意ヲ喚起シタルニ同氏ハ之ニ答フルニ此等ノ誤解ヲ避クヘキ唯一ノ手段ハ會議ノ內容ヲ盡ク公表スル

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

ニ在ルヘキ旨ヲ以テシタルカ結局兩國全權委員ハ新聞紙ニ對スル通信ニ關シ今後一層ノ注意ヲ加フヘキ旨ヲ互ニ約セリ

會議ハ新聞通知案(附屬書第二號)ヲ作成シ午前十時三十分ヲ以テ散會セリ

會議ハ日本全權委員ノ請求ニヨリ午後三時ヲ以テ再開セラレタリ

講和條件第一條ノ討議ニ入ルニ臨ミ小村男爵ハ英文ヲ以テ本條ノ新案(附屬書第三號)ヲ「ウヰッテ」氏ニ交付セリ

露國全權委員ハ右文案ヲ閱覽シタル上左記ノ諸點ニ關シ日本全權委員ノ注意ヲ喚起シタリ

(一) 露國案ニ於テハ日本國カ韓國ニ於テ執ルヘキ措置ハ韓國皇帝ノ主權ヲ侵害スヘカラサル旨ヲ記セル特別ノ一項存在シタリ然ルニ日本新案ニ於テハ此ノ一項ヲ削除セリ此ノ點ニ關シ露國全權委員ハ國際關係上右一項ヲ條約文ニ存スルノ必要ナルコト並右ハ主義及形式ノ問題ニ外ナラサルコト且露國ハ韓國ニ於ケル日本ノ措置ヲ妨礙スルノ意思ハ毫モ之ヲ有セサルモ同國主權ヲ消滅ニ歸セシムル條項ニ露國獨リ記名スルコトハ其ノ爲シ得ル所ニアラス蓋シ韓國ノ運命ニ均シク利害ヲ有スル他ノ諸國ハ之ニ對シ抗議ヲ唱フルコトアルヘク從テ日本ニ取リテモ亦露國ニ取リテモ右韓國主權ニ關スル一項ヲ保存セサルハ甚タ注意ヲ缺ケルコトナルヘキ旨ヲ說示セリ

日本全權委員ハ之ニ對シ韓國ノ獨立ハ事實上最早完全ナル狀態ニ於テ現存セサルヲ以テ右ノ如キ條項ヲ條約上ニ存セシムルコトハ之ヲ承認スル能ハサル旨ヲ答ヘタリ

仍テ兩國全權委員ハ本件ニ關シ互ニ其ノ意見ヲ交換シタル後韓國皇帝ノ主權問題ハ毫モ之ヲ第一條ニ記載スルコトナク唯左ノ決議ヲ會議錄ニ記入シ置クコトト定メタリ

日本國全權委員ハ日本國カ將來韓國ニ於テ執ルコトヲ必要ト認ムル措置ニシテ同國ノ主權ヲ侵害スヘキモノハ韓國政府ト合意ノ上之ヲ執ルヘキコトヲ玆ニ聲明ス

(二) 第二ニ論題トナリタルハ露韓間ノ國境ニ於テ執ルヘキ軍事上ノ措置ナリキ本項ニ關スル露國案ハ「日本國ハ……韓國ニ接セル露西亞國領土ノ安全ヲ侵迫スヘキ措置ヲ執ラサルヘシ」ト云フニ在リシカ日本新案ニ於テハ本項ノ意義ヲ擴張シ韓國領土ニ關シテ露國ニモ同一ノ義務ヲ課セリ

露國全權委員ハ右ノ義務ヲ相互的トスルノ正當ナルヲ認メ本項ノ意義ヲ相互的ニ擴張スルコトニ同意シタリ但シ該境上ニ於テ戰爭前ヨリ既ニ存在シタリシ堡壘ニシテ永久的性質ヲ帶フルモノハ露國ニ於テ之カ武裝ヲ解除スルノ義務ヲ負フ能ハサル旨ヲ附言セリ日本國全權委員ハ說示シテ曰ク前述條項ハ雙方カ開戰後ニ於テ築造シタル一時的堡壘並兩國カ將來執ルコトアルヘキ軍事上措置ニノミ關スルモノナリト此ニ於テ兩國全權委員ハ上述ノ意義ニ依リ本問題ヲ解決スルコトニ合意シタリ

尋テ露國全權委員「ウヰッテ」氏ハ第一條中ノ他ノ一句ノ文意充分明瞭ナラサルカ如ク見ユル旨ヲ說示セリ此ノ句ニ對スル露國案ハ「露西亞國及露西亞國臣民ハ韓國ニ於テ他ノ諸

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

外國並其ノ國民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ享有スヘシ」ト云フニ在リシカ日本全權委員ハ右案文ノ冒頭ニ添フルニ「上記約束ノ下ニ於テ」ナル文句ヲ以テセリ然ルニ露國全權委員ノ見ル所ヲ以テスレハ右數語ノ插入ハ露國及露國臣民ハ韓國ニ於テ他ノ諸國並其ノ國民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ享有セスシテ單ニ前述約束ノ制限內ニ於テ此等權利ノ一部ヲ享有スルノミナリトノ意義ヲ有スルモノノ如シ故ニ露國全權委員ハ其ノ意見ニ依レハ斯ノ如ク在韓露國臣民ヲシテ他ノ諸國民ヨリモ劣等ノ地位ニ立タシムルコトトナルヘキ文案ニハ同意スルコト能ハサル旨ヲ陳述セリ

之ニ對シ小村男爵ハ日本ハ韓國ニ於テ他ノ諸國民カ享有スル待遇ニ關シ露國臣民ヲ除外スルノ意思ハ毫モ之ナキモ唯同條初段ノ規定ヲ一層明瞭ナラシムル爲前述數語ヲ加フルハ缺クヘカラサルコトナリ而シテ其ノ結果タルヤ露國臣民ハ韓國ニ於テ他諸國民ト同一ノ權利ヲ享有スルニ至ルヘキ旨ヲ說示シタリ斯クテ長時間討議ノ上露國全權委員ハ小村男爵ノ思想ヲ正確ニ表明スヘキ新文案ヲ次回ノ會議ニ提出スヘキ旨ヲ約セリ

兩國全權委員ハ新聞通知案(附屬書第四號)ヲ協定シテ午後六時三十分ヲ以テ散會セリ

小村壽太郎(記名)

高平小五郎(記名)

セルジ、ウ非ッテ(記名)

ローゼン(記名)

附屬書第一號

第一　第一條ニ對シテハ何等ノ異議ヲ存セス帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上優越ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ執ルコトヲ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ阻礙セス又之ニ干涉セサルヘキコトヲ約スルノ覺悟ナリ但シ露西亞國及露西亞國臣民ハ他ノ諸外國並其ノ國民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ享有スヘキハ勿論ナリ且前述日本國ノ措置實行ノ爲ニ韓國皇帝ノ主權ヲ侵害スヘカラサルコトト知ルヘシ又特ニ軍事上措置ニ關シテハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲日本國ハ韓國ニ隣接セル露西亞國領土ノ安全ヲ侵迫スヘキ措置ヲ執ラサルヘシ

第二　帝國政府ハ本條ノ前段ヲ承諾スルノ覺悟ニシテ露西亞國軍隊ヲシテ日本國軍隊ト同時ニ滿洲ヨリ撤退セシムルノ意向ナリ而シテ撤兵ノ細目及條件ハ追テ決定スルコトヲ得ヘシ同條ノ後段ニ關シテハ帝國政府ハ清帝國ノ主權ヲ侵迫スルノ性質ヲ帶ヒ及權利平等主義ト相容レサルカ如キ領土上特權並專屬的讓與又ハ便益ニ付何等ノ主張ヲ有セサル旨ヲ聲明スルノ覺悟ニシテ帝國政府ハ之カ爲必要ノ保障ヲ與フヘシ右根本的原則ノ一旦明定セラレタル以上ハ露國全權委員ハ日本全權委員ニ提議スルニ第二條後段ニ關スル日本國政府ノ希望ヲ精確ニ言明セラレムコトヲ以テシ且帝國政府ニ於テハ日本國又ハ他諸國ノ利益ヲ侵害スヘキコトハ總テ之ヲ排除セントスルノ意向ヲ有スルコトヲ聲明スルモノナリ滿洲ニ於テ公共的性質ヲ帶ヘル唯一ノ露國

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

ノ私人的企業ハ東清鐵道ナリトス但シ同鐵道ニ關聯スル問題ハ特ニ他條ニ於テ攻究シアリ

第三　帝國政府ハ本條ヲ承諾スルノ覺悟ナリ然レトモ滿洲ノ此等部分ニ於テ露西亞國及露西亞國臣民ハ同地方ニ於テ他ノ諸外國及其ノ國民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ保有スヘキハ勿論ナリトスホス諸地方ニ關シ露西亞國ハ此等地方ニ對スル其ノ權利ヲ日本國ニ讓與スルノ意向ヲ有ス然レトモ同地方ニ對スル清國ノ主權及右租借ニ關シ露西亞國カ清國政府ト締結シタル諸條約ニ鑑ミ右ノ如キ讓與ハ同政府ト協商ヲ經ルニアラサレハ之ヲ爲スコト能ハサルヘシ

第四　帝國政府ハ本條記述ノ主意ニ對シ全然同意ヲ表シ若シ此ノ規定ニシテ日本國提出ノ條件中ニ插入シアラサリセハ露西亞國ハ自ラ之ヲ提出スルヲ以テ其ノ義務ト認メタリシナルヘキコトヲ聲明ス

第五　薩哈嗹島ニ對スル露西亞國舊時ノ權利ハ日本國カ未タ同島ヲ領有セス又ハ少クトモ其ノ大部分ニ對シテ毫モ領有權ヲ行ハサリシ時代ニ於テ既ニ存シタリシナリ加之薩哈嗹島カ甚タ淺ク且僅ニ七露里ノ幅員ヲ有スル一海峽ニ依リテ大陸ト相隔ツルヲ以テ之ヲ觀ルニ同島ハ亞細亞ニ於ケル露領ノ自然的連續ニ外ナラス故ニ露西亞國ハ同島ノ讓與ニ同意スルコト能ハスト雖モ同島ニ於テ廣ク海上漁業及他ノ商業的企業ヲ營ムノ權利ヲ日本國ニ許與スルノ意向ハ充分之ヲ有スルモノナリ而シテ右ノ如キ營業ノ條件ハ特別ノ取極ヲ以テ之ヲ協定スルヲ得ヘシ

第六　帝國政府ハ本條ニ對シ異議ヲ有セサルヘシト雖モ同條所載地ニ對スル清國ノ主權ニ鑑ミ露西亞國ハ豫メ清國ト協商ヲ遂クルコトナクシテ其ノ權利ヲ日本國ニ讓與スルコト能ハサルヘシ但シ露清兩國間ニ締約セラレタル該租借カ其ノ效力ヲ及ホス地方全部ニ於ケル個人ノ權利カ依然存續スヘキハ固ヨリ言ヲ俟タス

第七　帝國政府ハ主義ニ於テ本條ヲ承諾ス但シ日本國軍隊ノ現ニ占領中ナル鐵道線ノ外ハ之ヲ拋棄スルコト能ハス而シテ右ノ條件ヲ以テ讓與スヘキ鐵道線ノ終點ハ雙方合意ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要スヘシ然ルニ右鐵道線路ヲ敷設且經營スルノ特許ハ同地方ニ對シテ今尚主權ヲ保有スル清國ニ依リテ一ノ私立會社ニ與ヘラレタルモノナルコト並軍事占領ノ事實ハ毫モ同會社ノ權利ヲ侵害スルモノニアラサルコトハ之ヲ顧念セムコトヲ要ス帝國政府ハ清國政府ニ向テ今日以後何時ニテモ右線路買上權ヲ行使スルコトヲ許シ且同會社ト協商スルコトハ同政府自ラ其ノ責ニ任スルノ覺悟ナリ而シテ同會社ノ所有ニ歸スヘキ買上代金ハ之ヲ日本國ニ讓與スヘシ

（備考）露清銀行ニ本鐵道ノ敷設ヲ特許シタル露曆千八百九十六年八月二十七日（九月八日）附條約第十一款ニヨリ清國政府ハ該線路完成開業後三十六箇年ヲ經ハ之ヲ買上クルノ權ヲ有セリ南滿洲支線敷設ニ關シテハ露曆千八百九十八年六月十二日（六月二十四日）附條約ヲ以テ前記條約ヲ適用スルコトトナセリ

第八　本條ニ對シテハ何等異議ヲ存セス鐵道會社ハ滿洲幹線並南滿洲支線中同會社ノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

所有ニ殘存スヘキ部分ノ經營ニ關シテハ露曆千八百九十六年八月二十七日(九月八日)附特許條約ノ條件ヲ格守スヘシ同特許條約第八項ニハ該線路ニ依リ輸送セラルヘキ露西亞國軍隊及軍需品ハ清國領土內ニ停留スヘカラサル旨ヲ規定セリ

第九　露西亞國ハ本條ノ規定ニ同意スルコト能ハサルヘシ抑モ軍費拂戻ナルモノハ獨リ征服セラレタル國ノミノ之ヲ爲スコトナリ然ルニ露西亞ハ征服セラレタル國ニ非ス凡ソ一國領土カ敵ノ爲僅カニ攻撃セラレタルニ過キサルニ際シ該國ハ自ラ以テ征服セラレタルモノト認ムルコト能ハス縱ヒ日本國カ沿黑龍江州、沿海州全部ヲ占領シタリトスルモ露西亞國ノ活力ハ毫モ之カ爲ニ侵害セラルヘキニアラスシテ露西亞國ハ尙戰爭ヲ繼續スヘシ獨リ日本國ノ戰捷軍カ露西亞國ノ內地ニ進入シタル場合ニ於テノミ露西亞國民ハ軍費拂戻問題ノ起リタル所以ヲ了解シ得ヘケム往年「セバストポー」ル陷落後ニ開催セラレタル巴里會議ニ於テタニ同盟列國ハ軍費拂戻問題ヲ起シ得ヘシト認メサリシ事實ハ露國全權委員ニ於テ日本全權委員ノ注意ヲ喚起セサルヘカラスト信スル所ナリ軍費ハ戰爭繼續ノ方法盡キタル國ニヨリテノミ拂戻サルルモノニシテ此ノ如キハ決シテ露西亞國ノ現狀ニアラス

然レトモ帝國政府ハ軍費拂戻ヲ拒絕スルト同時ニ日本國カ仕拂ヒタル費用ニシテ戰爭其物並露西亞國ノ損害ノ爲ニナシタルニアラスシテ戰爭ノ結果艱苦ニ陷リタル露西亞國人ノ利益ノ爲ニナシタルモノハ之ヲ日本國ニ賠償スルノ至當ナルヲ認識ス俘虜給養費、病者其他ノ保護ニ關スル費用ノ如キハ卽チ之ニ屬スルモノナリ

第十　露西亞國ハ此ノ要求ニ應スルコト能ハス國際關係ノ實際ニ於テ此ノ如キ要求ヲ支持スルニ足ルヘキ先例ヲ發見スルコトハ困難ナルモノノ如シ加之此ノ要求ハ講和談判者雙方カ以テ其ノ精神トナスヘキ平和的意思ト兩立スルコト難シ縱ヒ中立港ニ於ケル露西亞國軍艦カ日本國カ之カ爲ニ獲得スヘキ實質的利益ハ比較的僅少ナルヘシ又此ノ如キ條項ニ同意ヲ與フルコトハ露西亞國ノ威嚴ト相容レサルモノナリ

第十一　外國ノ爲ニ此ノ如キ約務ヲ課セラルルコト是亦露西亞國ノ威嚴ト相容レサルヲ以テ露西亞國ハ之ニ同意スルコト能ハス但シ帝國政府ハ近キ將來ニ於テ太平洋ニ著大ナル海軍力ヲ維持スルノ意向ヲ有セサルコトハ之ヲ聲明シ得ヘシト信ス

第十二　露西亞國ハ日本海「オコーツク」海及「ベーリング」海ニ瀕スル沿岸ニ於テ日本國臣民ニ漁業權ヲ許與スル爲日本國ト協定ヲナスノ覺悟ナリ但シ右漁業權ハ海洋ニ瀕スル沿岸ノミニ限リ入江及河川ニ及フコト能ハサルモノトス而シテ此等方面ニ於テ旣ニ露西亞國臣民又ハ外國臣民ニ屬スル權利ノ依然效力ヲ有スヘキハ言ヲ俟タス

附屬書第二號

八月十二日土曜日午前ノ會議ニ於テ露國全權委員ハ一昨日日本全權委員ヨリ提出セラレタル條件書ニ對スル回答ヲ書面ニテ交付セリ次回ノ會議ハ日本全權委員ニ於テ右回

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

答書ヲ攻究シ討議ヲ開始スルノ準備整ヒタル旨ヲ露國全權委員ニ通知シタルトキ之ヲ開クヘキコトニ決定セリ而シテ右會議ハ本日午後三時若ハ明日午後三時ニ開カルヘキ筈ナリ

附屬書第三號

第一條　露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干渉セサルコトヲ約スヘシ而シテ上記約束ノ下ニ於テ露西亞國及露西亞國臣民ハ他ノ諸外國及其ノ臣民又ハ人民ニ現ニ屬シ又ハ將來屬スルコトアルヘキ一切ノ權利ヲ享有スヘキハ勿論ナリ尚又日露兩國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲露韓間ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土ノ安全ヲ侵迫スルコトアルヘキ措置ハ互ニ之ヲ執ラサルヘキコトト知ルヘシ

附屬書第四號

日本全權委員ハ其ノ講和條件ニ對スル露國回答ノ攻究ヲ了シタルニ付講和會議ハ同條件ノ逐條討議ニ移ル爲午後三時ヲ以テ開會シ同七時散會セリ

明日ハ日曜日ニ付午前ハ會議ヲ開カス兩國全權委員ハ右討議繼續ノ爲午後三時ヨリ再ヒ會見スヘシ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

講和會議錄第三號

明治三十八年八月十四日ノ會議

午前十時開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏

落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウ井ッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プランソン」氏「コロストヴエッ」氏「ナボコフ」氏

露國全權委員ハ第一條ニ關シ前回會議ニ於ケル討議中陳述セラレタル主意ニ遵據シテ作成シタル同條文案ヲ提出セリ(附屬書第一號)

日本全權委員ニ於テハ右ノ文案ニ對シ何等異議ナカリシヲ以テ第一條ノ文言ハ確定ノモノト認メラレタリ

兩國全權委員ハ小村男爵提出案(附屬書第二號)ヲ議題トシテ第二條ノ攻究ニ移レリ

露國全權委員ハ同案ヲ閱讀シタル後說述シテ曰ク該案ハ露國ノ約束ヲ規定スルモ日本ノ約束ニ付テハ何等言フ所ナシ本問題ニ關シ完全ナル相互的狀態ヲ維持スル爲同一ノ約束ヲ日本ニ及ホシ以テ「露西亞國及日本國ハ相互ニ……ヲ約ス」ト言フヲ要スト」

小村男爵之ニ答ヘテ曰ク日本國ノ約束ハ第三條ニ規定シアリ本條ハ單ニ露國ニノミ關

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

スルモノナリト

「ウ井ッテ」氏ハ此ノ義務ヲ二箇條ニ分記スルコトニ異議ナキモ右ノ場合ニ於テハ雙方ノ義務ハ同一ノ文言ヲ以テ記述セサルヘカラサル旨ヲ述ヘ且氏ノ意見ニ依レハ寧ロ雙方ノ約束ヲ一條中ニ綜合スルヲ可トスル旨ヲ附言セリ

日本全權委員ハ此ノ意見ヲ贊成シ全然第三條ヲ削除シテ同條ニ規定シタル日本ノ約束ト第二條所載ノ露國ノ約束トヲ併記セムコトヲ提議セリ

會議ハ右ノ提議ヲ採用スルコトニ一致シ第二條前部ハ左ノ如ク確定セラレタリ

日本國及露西亞國ハ互ニ左ノ事ヲ約ス

一　本條約ニ附屬スル追加約款ノ規定ニ從ヒ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域以外ノ滿洲ヨリ全然且同時ニ撤兵スルコト

二　前記地域ヲ除クノ外現ニ日本國又ハ露西亞國ノ軍隊ニ於テ占領シ又ハ其ノ監理ノ下ニ在ル滿洲全部ヲ擧ケテ全然淸國ノ專屬行政ニ還附スルコト

兩國全權委員ハ第二條ノ討議ヲ繼續シ今後露國ハ淸國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル特權等ヲ滿洲ニ於テ有スルコトヲ主張シ若ハ此ノ如キ主張ヲ援助セサルヘシトノ約束ニ關スル原案ノ一部ニ付其ノ意見ヲ交換セリ

此ノ點ニ關シ「ウ井ッテ」氏ハ左ノ趣旨ヲ陳述シタリ

一　法律ニ準據シ一定ノ區域內ニ於テ獲得シタル一切ノ權利ニシテ第三者ニ於テモ同樣ノ利益ヲ受クルコトヲ制限セサルモノハ之ヲ特權又ハ專有權ト言フヲ得ス却テ

正當爭フ可ラサル權利ト認ムヘキコトハ玆ニ之ヲ明言セムト欲ス露西亞國ハ自國臣民ニ對シテモ將又諸外國人ニ對シテモ未タ曾テ斯ル權利ヲ滿洲ニ於テ獲得スルヲ制限シタルコトナク又右ノ如クニシテ既ニ存在スル權利ハ之ヲ保續セムコトヲ主張スルモノナリ然レトモ專有權又ハ特權ノ意義ニ該當シ又淸國ノ主權ヲ侵害スヘキ專屬權ヲ露國カ主張シ援助シ又ハ認可シタルコトハ未タ曾テ之ナキ所ナリ

右ノ陳述ニ對シ小村男爵ハ滿洲將軍ト露國官憲トノ間ニ成レル或約束例ヘハ吉林省ニ於ケル礦山經營ノ如キハ前述主義ト相容レサル專有權若ハ專屬的特權ノ性質ヲ有スルモノナル旨ヲ說示シ且露國政府ハ或土地(例ヘハ哈爾賓)ニ於テ鐵道經營ノ爲ニ必要ナルヨリハ遙ニ廣大ナル地域ニ於テ行政權ヲ行ヒ爲ニ其地ニ於ケル日本國臣民ハ露國政府ノ欲スル儘ニ取扱ハレ日淸間ノ條約ニ依リテ受ケタル權利ヲ享有スルコト能ハサリシ事實ヲ摘示シタリ

「ウ井ッテ」氏ハ之ニ答ヘテ氏ハ專有權若ハ專屬的特權ノ性質ヲ帶ヘル約束又ハ鑛山經營ノ特許アルヲ知ラス若シ果シテ此ノ如キ約束又ハ特許ノ存スルアリトセハ是レ單ニ露國官吏カ勅許ヲ經スシテ爲シタル處置ニ過キサルヲ以テ廢止セラルヘキモノニシテ又必ス之ヲ廢止スヘシト云ヒ又哈爾賓ニ於ケル事態ニ關シテハ露國カ同地ニ於テ行使セル權力ハ正當ニ獲得シタル財產ニ對スル所有者ノ權力並警察權ニ過キスシテ是亦特許條約ニ於テ規定セラレタルモノナリト述ヘ而シテ公權例ヘハ外國人ニ對スル司法權ノ如キハ之カ爲ニ毫モ侵害セラレタルコトナシ又東淸鐵道ノ特許ハ條約ノ規定ニ據リ淸

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

國自ヲ之ヲ與ヘタルモノニシテ該特許ノ何レノ條項ト雖モ他ノ個人又ハ會社カ滿洲ニ於テ同一ノ權利ヲ獲得スルノ權ヲ侵害スルモノニアラサル旨ヲ附言セリ

二、尚「ウ井ッテ」氏ハ露國全權委員ハ本條ニ於テ現實ノ事態卽チ目下滿洲ニ於テハ特許又ハ專有權ノ存在セサルコトヲ證言スルニ異議ナシト雖モ本件ニ關シ何等將來ニ對スル約束ヲ爲スコトハ日露兩國間ニ相互的ノモノト爲スニアラサレハ之ヲ肯諾スル能ハサル旨ヲ聲明セリ

右意見交換ノ後兩國全權委員ハ小村男爵ノ提議ニ基キ左ノ聲明ヲ以テ第二條ヲ結フコトニ一決セリ

露西亞帝國政府ハ淸國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若ハ專屬的讓與ヲ滿洲ニ於テ有セサルコトヲ聲明ス

東淸鐵道ノ特許ニ關シテハ同件ハ他ノ條ニ於テ特ニ規定スル所アルヲ以テ第二條ニハ之ヲ記載セス唯左ノ一項ヲ會議錄ニ書留メ置クコトニ一決セリ

日露兩國全權委員ハ將來ニ於ケル一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲茲ニ滿洲ニ於ケル東淸鐵道ノ敷設及經營ノ特許ハ門戶開放及均等待遇主義ト相容レサルモノニ非ス又右特許ニ依リテ獲得シタル土地ノ區域內ニ於テ日本國皇帝陛下ノ臣民並其ノ他ノ諸外國民ハ露西亞國皇帝陛下ノ臣民ト同一ノ權利及特權ヲ享有スヘキ旨ヲ聲明ス

尙南滿洲鐵道線ニ關スル討議ノ會議錄ニ於テモ前記宣言ト同一文ヲ記入スヘキコトニ合意セリ

右討議終結シ第二條ノ文言ハ確定ノモノト認メラレ會議ハ新聞通知案(附屬書第三號)ヲ作成シタル上午後六時ヲ以テ散會セリ

小村壽太郎(記名)

高平小五郎(記名)

セルジ、ウ井ッテ(記名)

ロ―ゼン(記名)

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

附屬書第一號(英佛兩文)

露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓絶ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干渉セサルコトヲ約ス韓國ニ於ケル露西亞國臣民ハ他ノ外國ノ臣民又ハ人民ト全然同樣ニ待遇セラルヘク之ヲ換言スレハ最惠國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ地位ニ置カルヘキモノト知ルヘシ尙日露兩國ハ一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲露韓間ノ國境ニ於テ露西亞國又ハ韓國ノ領土ノ安全ヲ侵迫スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措置ヲ執ラサルコトニ同意ス

附屬書第二號英佛兩文)

第二　日本國全權委員ハ露西亞國全權委員カ第二條第一段ヲ承諾シタルコトヲ領シ並同條ノ殘部ニ關シ同委員ノ爲シタル宣言ニ鑑ミ左ノ意義ニ同條款ヲ修正セムコトヲ提議ス

露西亞帝國政府ハ平和條約ニ附屬スル別約ノ規定ニ從ヒ日本國ト同時ニ滿洲ヨリ全然撤兵スヘキコトヲ約ス又露西亞帝國政府ハ其ノ占領又ハ監理ノ下ニ在ル滿洲全部ヲ擧ケテ全然淸國ノ專屬行政ニ還附スルコトヲ約ス尙同政府ハ滿洲ニ於テ淸國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若ハ專屬的

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

讓與若ハ免許ヲ現ニ有セス又將來之カ要求ヲ提出シ若ハ援助スルコトナカルヘキコトヲ聲明ス

日本國全權委員ハ別約ヲ以テ同時撤兵ノ細目及條件ヲ確定スルヲ緊要ナリト思料ス又同全權委員ハ露西亞國及露西亞國臣民ハ滿洲ニ於テ清國ノ主權ヲ侵害シ若ハ機會均等主義ヲ無視スル幾多ノ讓與及免許ヲ有セリトノ感想ヲ懷キタリ帝國政府ノ唯一ノ希望ハ同地方ニ於ケル清國主權及行政ヲ全ク恢復シ且均等待遇主義ヲ復興スルニアリ東清鐵道ニ關スル諸問題ハ第七條及第八條ニ於テ之ヲ考量スヘシ

附屬書第三號

八月十四日朝ノ會議ニ於テ第一條ノ文言ヲ決定シ同日午後ノ會議ニ於テ第二第三兩條ヲ討議決定シ同六時散會セリ

講和會議錄第四號

明治三十八年八月十五日ノ會議

午前十時開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プランソン」氏「コロストヴエツ」氏「ナボコフ」氏

各全權委員ハ清國カ滿洲ノ商工業ヲ發達セシメムカ爲執ルコトアルヘキ措置ヲ阻礙セサルコトヲ日露兩國ニ於テ約束スルコトニ關スル第四條ノ討議ニ進メリ

日本全權委員ハ此ノ條ニ關スル露國全權委員ノ同意ヲ領シ之ニ關シ滿足ノ意ヲ表セリ」

次ニ小村男爵ハ日本カ千九百年義和團事變後協定セラレタル一般約束ノ結果トシテ日清新條約締結ノ交涉中滿洲ニ於ケル某々場所ヲ外國貿易ノ爲開カムコトヲ清國ニ要求シタリシ時露國ハ故障ヲ提起シ後ニ至リテ之ヲ撤回シタレトモ鐵道沿線ノ諸市ニ關シテハ尙依然トシテ之ヲ固持シタル事實ヲ擧ケ將來ノ誤解ヲ避クル目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル外國貿易ノ爲ニ既ニ開カレ又ハ今後開カルヘキ港又ハ場所ニ對シテ露國ノ意向ヲ確メ置キタシトノ希望ヲ述ヘタリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

「ウヰッテ」氏ハ之ニ答ヘテ此等ノ事實ハ滿洲カ混亂ノ狀態ニ在リシ時代ノコトニシテ且鐵道ノ某々停車場ニノミ關シタルコトナリト云ヒ且露國ハ滿洲ニ於ケル如何ナル港又ハ場所ナルヲ問ハス其ノ外國貿易ニ開カルルコトニ反對セサルコトヲ約スヘシ但シ此ノ約束ノ相互的ニシテ遼東方面ヲ含ムモノタルコトヲ小村男爵ハ此ノ見解ヲ承諾シ且日本ハ大連灣ヲ露西亞國行政ノ下ニ在リタル時ト同樣ノ條件ニ於テ外國貿易ノ爲ニ開キ置クコトニ故障ナカルヘキ旨ヲ聲明セリ

各全權委員ハ敍上ノ諸點ニ付一致シタルヲ以テ第四條ハ確定ノモノト認メラレタリ（附屬書第一號）

會議ハ次ニ薩哈嗹島ニ關スル第五條ノ討議ニ進メリ日本全權委員ハ此ノ問題ニ付露國全權委員ノ意見及論結ニ一致スルコト能ハサル理由ヲ擧ケタル一ノ英文覺書ニ佛文飜譯ヲ添ヘテ提出セリ（附屬書第二號及第三號）

露國全權委員ハ此ノ覺書ヲ閱讀シタル後尚其ノ回答書中第五條ニ對スル部分ニ表明シ置キタル意見ヲ變更スルコト能ハサル旨ヲ聲明シ且露國ハ極東ニ於ケル現勢ヲ熟知スルモノナルモ薩哈嗹島ノ獲取ハ只事實上ノコトニ止リ權利的ノモノニアラサルコトヲ認ムルノ外ナキ旨ヲ述ヘタリ

小村男爵ヨリ右意見ノ理由ヲ說明スヘキ旨ノ請求ニ應シ「ウヰッテ」氏ハ曰ク露國ハ其ノ國家ノ威嚴ト相容ルル總テノ讓步ヲ爲ス覺悟ニシテ本會議中實質上一層重要ナルモ露國ノ威嚴ニ觸レサル問題ニ就キ既ニ爲シタル一切ノ讓步ハ卽チ其ノ證ナリ然レトモ日

本ヲ初メ全世界ノ公認スル條約ノ效力ニ依リ充分ノ權利ヲ以テ獲得シ三十年以上露西亞帝國ノ一部分ヲ構成シタル土地ヲ讓與スルコトハ事物現在ノ狀態ニ於テ露國ハ之ニ同意セサルヘカラサル程ノ地位ニ立到リタルモノト認ムルコト能ハサル事項ナリト

小村男爵ハ大要左記ノ如キ趣意ヲ以テ之ニ答ヘタリ

古來大國ニシテ其ノ領土ヲ割讓シタル歷史上ノ先例夥多ナルヲ以テ本件ノ場合ニ何等國民感情ノ問題アリ得ヘキノ理ナシ露國ハ屢領土ノ割讓ヲ要求シタルコトアリシモ而カモ依然トシテ此等隣國ト良好ノ關係ヲ維持セリ目下最モ緊要ナルハ事局ヲ極端ニ推進セシムルコトナキ樣此處ニ於テ本問題ヲ協定スルニ在リ薩哈嗹島ノ領有ハ日本國ニ取リ本來最モ緊切ニシテ且國家ノ安全ニ關スル問題ナリ然ルニ露國ニ取リテハ其ノ國運ニ緊切ナル部分ト關係甚タ薄ク只利害ノ問題タルニ止ル今ヲ距ルコト約二百五十年此ノ地方ニ未タ露國人アラサリシ時ヨリ日本ハ既ニ該島ノ或部分ニ於テ其ノ權利ヲ行ヘリ卽チ最初ニ派遣セラレタル日本國官吏カ該島ヲ占領シタルハ千六百二十四年ナリ然ルニ露國人ハ千八百三年ニ至リテ漸ク該島ニ來リ千八百五十年迄ハ黑龍江地方及薩哈嗹島ヲ領有セサリキ夫ノ千八百五十一年ニ始マリ千八百七十五年ノ條約ニヨリ了リタル日露間ノ談判ハ露國ニ利益アル權利名義ヲ設定スルニ至リタルコトハ事實ナリ然レトモ日本人民ノ感情ハ此ノ處理ノ公平ナリシコトヲ認メス露國ノ薩哈嗹島ニ關スル擧動ヲ以テ侵略的ニシテ且不可抗力ト看做セリ又地理上ヨリ之ヲ觀レハ薩哈嗹島ハ日本群島ノ連續ニシテ軍略上ノ見地ヨリスレハ之ヲ領有スルコトハ日本國ノ安全ヲ保護

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

スルニ缺クヘカラサルコトナリ

「ウヰッテ」氏曰ク「爭フヘカラサル記錄ニ徵シタル歷史的事實ハ左ノ如シ千八百七十五年迄ハ日本ハ薩哈嗹島ニ於テハ其ノ南端ニ少數ノ散在セル漁場ヲ有シタルノミ該島ノ北部ニ至リテハ殆ント世ニ知ラレス且何人ニモ屬セサリキ該島領有ノ權利ハ千八百七十五年ノ條約ニ依リ初メテ設定セラレタルモノニシテ該條約ニ依リ日本ハ千島群島ニ換ヘテ薩哈嗹島ニ於ケル露國ノ權利ヲ認メタルナリ經濟上ノ見地ヨリスレハ本員ハ該島カ日本ニ取リテ甚タ重要ナルコトヲ認ム想フニ是レ日本人民カ該島ノ領有ニ重キヲ置ク主要ノ理由ナラム本員等ハ此ノ理由ニ鑑ミ日本ニ對シ總テ爲シ得ヘキ讓與特ニ漁業ニ關スル讓與ヲ爲スノ覺悟ヲ有スルナリ然レトモ此等漁業權ヲ享受スル爲ニハ該島ヲ政事的ニ領有スルコトヲ必要トセサルヘシ此ノ見地ニツキ本員ハ先刻小村男爵ノ述ヘレタル言辭ヲ爰ニ引用セム男爵ハ云ヘリ千八百五十年ニ於テ露國人カ黑龍江地方ヲ領取シタルトキ彼等ハ又薩哈嗹島ヲ領取セリト是卽チ露國人ハ既ニ此時代ニ於テ薩哈嗹島ノ領有ハ黑龍江地方ノ安全ノ爲缺クヘカラサルモノタルコトヲ認メタリシ證ナリ又今回ノ戰爭ハ露國カ決シテ薩哈嗹島ヲ以テ日本ニ對スル侵略ノ根據トナスノ意思ナキコトヲ充分ニ證明スルモノナリ且該島ハ我邦ニ取リ大ナル防禦的價値ヲ有ス該島ハ我邦ノ門戶ニ於ケル哨兵ナリ日本ノ慾望ヲ惹起スハ恐ク此事ナラム卽チ日本ハ隣國ノ門戶ニ於ケル哨兵タラムコトヲ欲スルモノナルヘシ若シ吾人カ爰ニ盡力スル目的タル輩固ナル平和ノ見地ヨリ此ノ問題ヲ觀察セハ本員ハ確言セム薩哈嗹島ハ日本ニ讓渡スヨ

リモ之ヲ露國ノ領內ニ存セシムル方尙一層右ノ目的ニ合スルモノナルコトヲ加之隣邦間ノ戰爭後領土ヲ合併スルコトハ常ニ永續スル怨恨ヲ生セシムルモノナルコトハ歷史ノ吾人ニ證明スル所ナリ卽チ獨逸カ千八百七十一年ニ「アルザース」及「ローレーヌ」兩州ヲ合併シタルコトハ今日迄兩隣國國民間ニ存スル不和ノ主因ナリ之ニ反シ千八百六十六年ニ於テ獨逸カ「ビスマルク」公ノ主張ニヨリ墺國ヨリ土地ヲ割取スルコトヲ避ケタル賢明ノ處置ハ其ノ結果今日迄存續スル同盟トナレリ露國民ハ長年月間露國カ正當ノ權利ヲ以テ平和的ニ領有シ來リタル土地ヲ失フコトヲ認諾スルコト能ハス故ニ本件割讓ハ必スヤ國ヲ擧ケテ不滿ノ感情ヲ惹起スヘク吾人カ最モ熱心ニ希望スル目的タル極東平和確定ノ事業ヲ妨クルモノナリ」ト

小村男爵ハ再ヒ日本ノ歷史的權利ノ問題ニ言及シ千八百年日本人間宮某海峽ヲ發見シ其名該海峽ニ與ヘラレタル事實ヲ擧ケ且既ニ千八百三年ニ於テ日本政府ハ該島ノコトニ瞰掌シタリ尤モ交通不便ノ爲其ノ事業ハ充分有效ナル方法ヲ以テ行ハルルコト能ハサリシモ右ノ事實アリシコトヲ確言シ且千八百五十三年以來日本ハ銳意該島ノ政治ヲ始メタレハ露國カ其後或ハ占領ニ依リ或ハ外交ニ依リ其ノ領有ヲ獲得シタルコトハ日本人ノ常ニ觀テ以テ侵略的ノ行爲ト做シタル所ナリ日本人民ハ該島ニ關スル歷史的ノ權利ヲ自覺シテ終始深厚ナル感情ヲ懷キ而シテ其ノ感情タルヤ近頃該島ヲ占領シタルニ因リ極度迄熱熾トナリタリト述ヘタリ

又「ウヰッテ」氏カ「今回ノ戰爭ハ露國カ決シテ薩哈嗹島ヲ以テ日本ニ對スル侵略ノ根據ト

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

爲スノ意思ナキコトヲ充分ニ證明セリ」ト云ヘルコトニ對シ小村男爵ハ「ウヰッテ」氏ニ說クニ若シ今回ノ戰爭ノ主タル戰場カ滿洲ニアラスシテ沿海州及沿黑龍江州ニ在リシナラムニハ薩哈嗹島ハ必スヤ露國ノ爲ニ重要ナル根據タル用ヲ爲シタルナルヘシトノコトヲ以テセリ

次ニ又小村男爵ハ「ウヰッテ」氏ノ擧ケタル兩國間不和ノ種子云云ニ論及シ抑モ將來ノ不和ナルモノハ領土割讓カ相當ノ理由ヲ缺ケル場合ニ於テノミ有リ得ルモノニシテ薩哈嗹島割讓ハ決シテ斯ル場合ニアラス殊ニ其ノ露國ニ對シテ求ムル所ハ畢竟同國ヲシテ既成ノ事實ヲ認メシムルニ外ナラス日本政府ハ日本國カ該島ヲ領有シタル曉該島ヨリ何等侵擊ノ行ハルルコトニ對シ黑龍江地方ノ領土ノ安全ヲ確保スル爲ニハ露國ニ重要ナル保證ヲ與フヘシト述ヘ尙又同男爵ハ上ニ詳說シタル理由ハ露國全權委員ニ於テ之ヲ充分ナリト認メ以テ戰爭ノ法理ニ基ケル他ノ議論ヲ提起スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルカ如キコトナキヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ

「ウヰッテ」氏ハ之ニ答ヘテ自己ノ意見ヲ變更スル理由ヲ見サル旨ヲ述ヘ且氏ノ所見ニ據レハ日本國ノ歷史的權利ナルモノハ其ノ根據薄弱ナリト氏ハ日本人カ海峽ヲ發見シタリトノ事實ハ之ヲ知ラサリシモ此ノ事實ハ以テ形勢ヲ變化セシムルモノニアラス此ノ發見以後隨分久シキ間日本國ニ在リテハ何人モ薩哈嗹島ノコトニ思ヒ到リタルモノナク「ムラヴヰヨフ」カ同島ヲ占領シタルコトハ初メテ日本人ノ注意ヲ該島ニ惹キ露國人カ之ヲ併呑スルコトヲ有益ナリトナセル以上ハ該島タルモノ必スヤ或價値アルニ相違ナシトノ思想ヲ生セシムルニ至リタルナリ從テ日本國ニ於ケル人民ノ感情ハ單ニ該島ヲ取リ得ヘカリシ時ニ取ラサリシコトヲ遺憾トスル情ニ基ケルノミ露國ニ於ケル人民ノ感情ハ尙一層重大ニシテ本員等カ鞏固ナル平和ニ達セムコトヲ欲スル限リ之ヲ無視スルコトヲ得サルナリ若シ夫レ將ニ會議ノ開カレムトスルニ際シ日本人カ該島ヲ占領シタルコトタル只一ノ軍事的行動タルニ止リ未タ合法的領有ノ權利ヲ生セシムルモノニアラスト述ヘタリ

小村男爵ハ左記ノ要旨ヲ摘示シテ此ノ問題ニ關シ露國全權委員カ交讓ノ精神ヲ以テ再考セムコトヲ求メタリ

一日本國全權委員ハ露國民ノ感情ヲ毫モ無視スルモノニアラス然レトモ日本國民ノ感情ハ半世紀以來恆ニ存在シ現ニ同島ヲ占領シタル結果其ノ感情ハ極度迄熱熾トナリタルコト

二薩哈嗹島ノ領有ハ兩國ニ取リテ等シク重要ナルヘシト雖モ此ノ兩者ノ間ニハ大ナル相違アリ露國ニ取リテハ只利益ノ問題ニ過キサルモ日本ニ取リテハ國安ノ問題タルコト

三日本カ薩哈嗹島ヲ領有スルコトタル國防ノ目的ヲ以テスルニ外ナラサルヲ以テ露國ニ對スル侵迫トナリ若ハ極東ノ平和ニ對スル危害トナリ得ヘカラサルコト

四露國ハ二種ノ執ルヘキ途ヲ有ス卽チ日本ノ占領ヲ默認シ何事ヲモ爲サスシテ之ヲ放任シ置クカ若ハ該島ノ處分ニ關シ日本ト協定ヲナスカニアルコト

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

五　將來兩國ノ友誼的關係ノ爲此際雙方ノ一致ヲ以テ滿足ニ此ノ問題ヲ決シ置ク方利益ナルコト

「ウヰッテ」氏ハ小村男爵ノ此等ノ論旨ニ對シテハ既ニ充分ニ答辯シ更ニ之ヲ反覆スル必要ヲ見サル旨ヲ答ヘタリ

此ノ議論ニ關スル露國全權委員ノ說明ハ左ノ如ク之ヲ約言スルコトヲ得ヘシ

一　露國ニ於ケル人民ノ感情ハ日本人民ノ感情ヨリモ尙一層重大ナリ何トナレハ該感情ハ取リ得ヘカリシ時ニ或領土ヲ取リ置カサリシコトヲ遺憾トスルノ情ニ基クモノニアラスシテ露西亞帝國ノ一部分ヲ失フコトヲ遺憾トスルノ情ニ基クモノナレハナリ

二　薩哈嗹島領有ノコトタル露國ニ取リテハ只利害ノ問題タルニ止ラス特ニ國安ノ問題タリ何トナレハ該島ハ其ノ地理上ノ位置ニヨリ沿黑龍江州ヘノ通路ヲ防禦スレハナリ

三　露國カ從來薩哈嗹島ヲ領有シタル狀態ニ依リ該島カ決シテ日本ニ對スル侵迫若ハ極東ノ平和ニ對スル危害トナリシコトナク又ナリ得ヘカラサルコトヲ明知スヘシ

四　日本カ薩哈嗹島ヲ占領セルコトニ對シ露國ノ孰ルヘキ途ハ一アルノミ卽チ該占領ヲ權利的ノ行爲トシテ認ムルコトナク歷史ニ其ノ判決ヲ下スノ時日ヲ與フルコト

五　露國全權委員ハ將來ニ於ケル兩國ノ友誼的關係ノ爲此際此ノ問題ヲ雙方ノ一致ニ依リ滿足ニ解決スルコトヲ利益ナリトスル小村男爵ノ意見ニ全然同意ス故ニ露國全權委員ハ日本全權委員カ其ノ薩哈嗹島ニ關スル意見ニ就キ再考セラレムコトヲ望ムモノナリ

右ノ後各全權委員ハ薩哈嗹島ノ問題ニ付同意ヲ得ルコト能ハサルヲ認メ第六條ノ討議ニ移ルコトニ決セリ

新聞紙ニ對スル通信ハ起草セラレ且各全權委員ニ依リ認諾セラレタリ（附屬書第四號）

會議ハ午後零時三十分ニ畢リ同三時迄中止セラレタリ

會議ハ三時ニ再開シ各全權委員ハ日本全權委員ヨリ左記ノ如ク提議シタル第六條ノ討議ニ進メリ

旅順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權ハ該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スルモノトシテ露西亞國カ淸國ヨリ得タル一切ノ權利、特權、讓與及免許並一切ノ公共營造物及財產ト共ニ之ヲ日本國ニ移轉讓渡セラルヘキコト（英文ハ附屬書第五號）

露國全權委員ハ此ノ問題ニ就キ其ノ回答書中ニ於テ露國政府ハ此ノ條項ニ對シテ故障ヲ有セサルモ上記地方ニ對スル淸國ノ主權ニ顧ミ露國ハ豫メ淸國ノ同意ヲ得ルニアラサレハ日本ニ其ノ權利ヲ讓渡スルコト能ハサルヘク且該地方ニ於ケル個人ノ權利ハ侵サルルコトナキヲ要スル旨ヲ述ヘ置キタリ

右二樣ノ見地ヲ調和セムカ爲日本全權委員ハ當日ノ會議ニ於テ第六條ノ新案附屬書第

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

六號ヲ提出シ其意見ニテハ此案ハ露國全權委員ノ所說ヲ參酌シタルモノトセリ此案ニ於テ「日本ニ譲渡セヲルヘシ」トノ語ハ「露國政府ハ日本ノ利益ノ爲ニ抛棄ス」トノ語句ニ改メラレタリ是レ日本全權委員ノ意見ニテハ此ノ權利ノ移轉ニ豫メ清國ノ承諾ヲ得ルコトヲ不必要トナラシムルモノニシテ右ノ承諾ヲ得ルノ手數ハ全ク日本ニ委ネラルルコトトナルナリ

露國全權委員ハ此ノ意見ヲ贊シ得ヘキコトト信セス遼東地方ニ關シ清國ト結ヒタル正式ノ條約ハ露國ヲシテ清國ノ權利ヲ尊重セサルコト及該條約中ノ約束ニ何等ノ變更ヲ加フルコトヲ得サラシメ且清國ノ正式ノ承諾ナクシテ第三國ニ其ノ權利義務ヲ全然移轉スルカ如キハ尚一層不可能ノコトナリト陳述シタリ

小村男爵ハ之ニ對シ露國ノ誠意如何ハ勿論疑ハストト雖モ本條ノ約束カ實行セラレ得ルニ先チテ清國ノ承諾ヲ得ルコトヲ要スルコトトセハ其レニヨリ此ノ約束ノ價値ハ皆無トナルヘシト說示セリ

露國全權委員ハ之ニ對シ第六條ニ清國ヨリ必要ノ承諾ヲ得ルニ就キ露國ハ其ノ力ヲ致スヘシトノ正式ノ約束ヲ附加スルコトヲ承諾スト答ヘタリ

第六條ヲ書載スル最良ノ方法ニ關シ意見交換ノ後兩國全權委員ハ左ノ文言ヲ採用シタリ

露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以テ旅順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡セヲルヘシ

府ニ移轉讓渡ス露西亞帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財產ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國臣民ノ財產權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス(英文ハ附屬書第七號)

會議ハ新聞通知案(附屬書第八號)ヲ議定シタル後午後六時散會セリ

小村壽太郎(記名)

高平小五郎(記名)

セルジ、ウ非ッテ(記名)

ロ ― ゼ ン(記名)

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

附屬書第一號(英佛兩文)

日本國及露西亞國ハ清國カ滿洲ノ商工業ヲ發達セシメムカ爲列國ニ共通スル一般ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙セサルコトヲ互ニ約ス

附屬書第二號

日本國全權委員ハ第五條ニ關スル露西亞國全權委員ノ所見及論結ニ同意スルコト能ハサルコトヲ遺憾トス日本國全權委員ハ少クトモ薩哈嗹島ノ大部分ニ對スル日本國ノ權利ハ露西亞國カ占領シタル以前ノ時代ニ遡リテ之ヲ認ムルコトヲ得ヘキヲ信ス且該島タル亞細亞大陸系ノ自然ノ連續ニアラスシテ却テ日本帝國カ全然依テ以テ組成セラルル島群連鎖ノ自然且必要ナル一部ヲナスモノナリト認ム然レトモ日本國ヲシテ該島ノ讓渡ヲ要求スルニ至ラシメタル重要ノ事由ハ(第一)日本帝國永遠ノ安全ハ日本國カ該島ヲ獨リ自ラ監理スルコトヲ要スルコト(第二)日本國ハ戰爭ノ運命ニヨリ薩哈嗹島ヲシテ其ノ完全ナル占有ニ歸セシメ今ヤ該島ニ於ケル露西亞國ノ官憲ハ日本國官憲之ニ代リ該島ハ全然日本行政ノ下ニ在ルコト是レナリ日本國全權委員ノ希望スル所ハ斯ノ如クニシテ獲得シタル權利カ露西亞國ノ正式ノ讓渡ニヨリ確認セラルルニ在リ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

附屬書第三號

附屬書第二號ト同文(附屬書第二號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第四號

八月十五日午前ノ會議ニ於テ第四條及第五條ヲ討議シ第四條ハ一致ヲ以テ協定セラレタリ第五條ニ就テハ一致ノ決定ニ到達スルコト能ハサリシヲ以テ全權委員ハ意見ノ異ナルコトヲ認メテ他ノ條項ノ討議ニ進ムコトニ決シタリ會議ハ本日午後三時再ヒ開カルヘシ

附屬書第五號

旅順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スルモノトシテ露西亞國カ清國ヨリ得タル一切ノ權利、特權、讓與及免許並一切ノ公共營造物及財産ト共ニ之ヲ日本國ニ移轉讓渡セラルヘキコト

附屬書第六號

露西亞國全權委員ハ本條ニ對シ主義ニ於テ何等故障ヲ有セサルヲ以テ日本國全權委員ハ形式上ノ困難ハ直チニ排除シ得ラルヘシト信ス日本帝國政府ハ露西亞帝國政府ヲシテ清國ニ對スル一切ノ責任ヲ免カレシムル方法ヲ以テ本條規定ノ讓渡ヲ受諾スヘシ此ノ結果ハ該規定ヲ左ノ如ク書載スルコトニ依テ得ラルヘシ

露西亞帝國政府ハ日本國ノ利益ノ爲旅順口、大連並ニ其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權、讓與及免許ヲ拋棄ス又露西亞國政府ハ前記租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ日本國ニ讓渡ス又日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル個人ノ財産權カ尊重セラルヘキコトヲ約ス

附屬書第七號

本文所揭第六條確定案ト同文(同確定案佛文英譯ナリ)

附屬書第八號

八月十五日午後ノ會議ニ於テ第六條ヲ討議シ相互ノ一致ヲ以テ之ヲ協定シタル後明朝九時三十分迄休會セリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

講和會議錄第五號

明治三十八年八月十六日ノ會議

午前九時四十五分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏

落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プランソン」氏「コロストヴェッツ」氏「ナボコフ」氏

各全權委員ハ第七條ノ討議ニ進メリ

日本ノ提案ニ於ケル本條ノ原案ハ左ノ如クナリキ

哈爾賓旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並之ニ附屬スル一切ノ權利特權及財產及該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲ニ經營セラルル一切ノ炭坑ハ何等ノ債務及負擔ヲ伴ハシメスシテ露西亞國ヨリ之ヲ日本國ニ移轉讓渡スヘキコト

露國全權委員ハ主義ニ於テ本條ヲ承諾セシモ其ノ回答書中ニ此事ニ就キ左ノ如キ說明ヲナシ置キタリ

露西亞帝國政府ハ日本國軍隊ノ現ニ占領中ナル鐵道線ノ外ハ之ヲ拋棄スルコト能ハス而シテ右ノ條件ヲ以テ讓與スヘキ鐵道線ノ終點ハ雙方合意ヲ以テ之ヲ定ムルヲ要

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

スヘシ然ルニ右鐵道線路ヲ敷設且經營スルノ特許ハ同地方ニ對シテ今尚主權ヲ保有スル淸國ニ依リテ一ノ私立會社ニ與ヘラレタルモノナルコト並軍事占領ノ事實ハ毫モ同會社ノ權利ヲ侵害スルモノニアラサルコトハ之ヲ顧念セムコトヲ要ス帝國政府ハ淸國政府ニ於テ今日以後何時ニテモ右線路買上權ヲ行使スルコトヲ許シ且ツ同會社ト協商スルコトハ同政府自ラ其責ニ任スルノ覺悟ナリ而シテ同會社ノ所有ニ歸スヘキ買上代金ハ之ヲ日本國ニ讓與スヘシ

日本全權委員ハ會議ニ提出シタル文書(附屬書第一號及第二號)ニ於テ哈爾賓旅順口間ノ鐵道敷設經營ノ權利ハ遼東半島租借ノ重要部分ヲ成セルコト該鐵道カ其ノ全部分及全延長ニ亙リ其ノ敷設並現時經營ノ因テ來レル根本タル右租借ト運命ヲ共ニセサルヘカラサルコトハ論理上ノ結果ナルコト兩鐵道線路ノ自然ノ區分點ハ兩線ノ交叉點ナルコト及淸國カ直チニ買收ノ權利ヲ行フコトニ就テハ日本全權委員ハ日本帝國政府カ該鐵道線路ヲ所持經營スルコトハ淸國ノ買收權ニ關スル特許條約ノ規定及其他ノ條件ニ準據シ露西亞帝國政府カ滿洲橫貫鐵道線路ヲ所持經營スルト同樣ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘキコトヲ聲明セムコトヲ欲スル旨ヲ陳述セリ

之ニ對シ露西亞國全權委員ハ南滿洲支線ヲ以テ遼東半島租借ノ一部分ト認ムルコト能ハス從テ該支線ノ讓渡ハ遼東半島租借ノ讓渡ヨリ生スヘキ論理的結果ニアラサルコトヲ說キ又哈爾賓カ兩線ノ自然ノ區分點ナルコトヲモ認ムルコト能ハス露國ハ前揭回答書中ニ示シタル方法ニ從ヒ現ニ日本軍隊ノ占領スル部分ノ線路ノミヲ日本ニ讓渡スル

コトヲ諾スルコトヲ得ル旨ヲ陳ヘタリ同全權委員ハ尙前記區分點ハ或重要ノ場所タラサルヘカラス且露國カ引續キ所有スヘキ鐵道ノ部分ニ就キ露國カ爲シタル約束講和會議錄第三號參照)ハ日本ニ渡サルヘキ部分ニ關シテモ亦日本ヨリ之ヲ相互的ニ爲ササルヘカラサルコトヲ說述セリ

此ニ於テ小村男爵ハ此ノ事ニ關スル雙方ノ見解ニ重要ナル差異アルヲ認メ此ノ問題ニ對スル日本ノ位置ヲ明ナラシメム爲次ノ如キ意義ヲ以テ之ヲ說明セリ

該支線ノ敷設ハ最初遼東半島租借ニ關スル條約第八條ヲ以テ免許セラレ其ノ結果此ノ支線ハ該租借ノ主要且離ルヘカラサル部分ヲ成セリ之ヲ事實上ヨリ觀レハ旅順口ノ租借ハ千八百九十八年三月ニ締結セラレ此ノ租借ヲ基トシテ同年六月東淸鐵道敷設及經營ニ關シ淸國政府ト鐵道會社トノ間ニ一ノ契約結ハレタルナリ是卽チ租借ト鐵道トノ間ニ密接ナル關係ノ存スルコトヲ證明スルモノニシテ日本カ該支線全部ヲ要求スルハ此ノ理由ニ基クモノナリ況ムヤ此ノ支線タル單ニ旅順口トノ連絡ノミヲ目的トシテ敷設セラレタルモノナレハ一旦遼東半島ノ租借ニシテ日本ニ讓渡セラレタル以上ハ該支線ハ露國ニ取リテ最早何等存在ノ理由ナキモノタルニ於テオヤ且又該鐵道ノ讓渡ハ前記租借ノ讓渡ト同性質ノモノナレハ淸國政府ノ承諾ヲ以テ日本ニ對シ直接ニ之ヲ爲ササルヘカラス

右說明ニ對シ露國全權委員ハ南滿洲鐵道ハ遼東租借ニ關スル千八百九十八年四月二十五日ノ條約中ニ規定セラレタリト雖モ右租借ト何等ノ關係ヲ有セス是全ク二箇ノ異リ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

タル問題ナルヲ以テ各分離シテ之ヲ取扱ハサルヘカラスト說キ租借ニ依リ讓與セラレタル地域ノ問題ハ露淸兩國ノミニ關スルモ鐵道ノ問題ハ右兩國ノ外尙鐵道會社ノ利益ヲ考量シテ之ヲ決セサルヘカラス而シテ同會社ノ契約ニハ此ノ鐵道ヲ他ニ移轉スル唯一ノ方法ハ該事業ヲ淸國ニ於テ買收スルコトニ在ル旨ヲ規定セリ故ニ露國ハ日本全權委員提議ノ如ク該鐵道ヲ直接日本ニ移轉シ以テ淸國及同會社ノ權利ヲ侵害スルコト能ハス露國政府ハ只淸國ヲシテ期限ニ先チテ該鐵道ヲ買收スルコトヲ得セシメ其ノ買收代價ハ日本ニ轉交シ而シテ同會社ヲ滿足セシムルコトハ露國政府自ラ之ニ任スルコトヲノミ爲スヲ得ヘシト陳辯シタルニ小村男爵ハ斯ル手續ニテハ日本ハ或金額ヲ得ルノミニシテ鐵道其ノ物ヲ得サルコトトナリ本件讓渡ノ價値ヲ皆無トナラシムルモノナリト說示セリ之ニ對シ「ウヰッテ」氏ハ曰ク露國ハ究竟是ニヨリ其ノ讓渡スヘキ鐵道ノ部分ト一切ノ關係ヲ絕ツヘク從テ其ノ後ノ事柄ニ關シ日本國ハ淸國ト協定スルヲ得ヘシト陳ヘ且露國ハ淸國カ該鐵道ヲ其ノ儘日本ニ移轉スルコト及此ノ事ニ付遼東半島租借讓渡ノ場合ニ協定シタルト同一ノ手續ヲ採用スルコトニ對シ更ニ何等ノ異議ナキ旨ヲ附言セリ

次ニ小村男爵ハ日本國ハ支線全體ヲ要求セサルヘカラサルカ故ニ兩國鐵道線ノ區分點ハ哈爾賓ナラサルヘカラサル政事上ノ理由ヲ列敍シタル後彼ノ租借ニシテ一旦讓渡サレタル以上ハ支線全體カ同樣ノ運命ニ從フコトハ自然ナリト附言シタリ然ルニ此ノ兩線間ノ區分點決定ノ問題ニ付「ウヰッテ」氏ハ左ノ事情ヲ陳述シタリ

哈爾賓ハ右兩線間ノ終極ノ停車場タルニ必要ノ資格ヲ有セス此ノ地ハ鐵道敷設ニ際シ純然技術的ノ考量ヲ以テ松花江上ニ橋梁ヲ架設スルニ地形上便利ナル點ナリトシテ選ハレタル所ニ過キスシテ此ノ地方ニ商業ノ中心ナキコトハ之ヲ終極停車場ト爲スニ困難ヲ生スヘシ右ノ外尙ホ哈爾賓ヲ兩線ノ區分點トシテ選擇スルヲ不可トスル事情アリ日本軍隊ハ哈爾賓ニ到達セス而シテ同軍隊カ有效ニ占領セルモノノ外日本ニ讓渡ササルコトトナスハ正當ナルヘシ此ノ見地ヨリ例ヘハ公主嶺ノ如ク日露兩軍ノ前面陣地ノ在ル位置ハ恐クハ最モ正當ナル區分點ナルヘシ

小村男爵ハ若シ露國ニシテ哈爾賓ニ至ル迄ノ線ヲ讓渡スルコト絕對ニ不可能ナルニ於テハ此ノ區分點カ地勢上及天然上ノ見地ニ於テ重要ナル場所タラサルヘカラサルコトヲ考量シ該鐵道ノ第二回ニ松花江ヲ通過スル所ノ點ヲ以テ區分點トナスコトヲ提議セムト云ヘリ

「ウヰッテ」氏ハ此ノ區分點タルノ之ヲ重要ノ都會ニ定ムヘクシテ地勢上重要ナル場所ニ定メラルヘカラサルコトヲ述ヘタル後右區分點ヲ日本軍ノ前面陣地ノ在ル限界ニ於テ定ムルノ主義ハ之ヲ拋棄シ之ヲ公主嶺以北ニ於ケル第一ノ大都會卽チ商業ノ大中心ニシテ吉林ニ向テ出發スル停車場ノ所在地ナル寬城子(長春)迄移スコトトスヘシト附言セリ」

小村男爵ハ之ニ答ヘテ若シ寬城子吉林間ノ支線ニシテ日本ニ渡サルルニ於テハ寬城子ヲ以テ區分點トナスコトヲ承諾スルコトヲ得ヘシ尤モ同男爵ノ知ル所ニ依レハ寬城子吉林間ノ線路ハ未タ少クトモ永久的ニハ敷設セラレサルナリト陳述セリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

之ニ對シ「ウヰッテ」氏ハ若シ此ノ支線ニシテ未タ永久的ニ敷設シアラサルニ於テハ之ヲ日本ノ爲ス所ニ任スニ於テ異議ヲ有セス尤モ此ノ事ニ就テハ實際ノ事情ヲ知ラサルヲ以テ直チニ電報ヲ以テ問合スヘク而シテ若シ此ノ支線ニシテ既ニ存在セムニハ其ノ現在ノ所有者ニ屬スヘキモノナリト說明セリ

爰ニ於テ雙方全權委員ハ寬城子ヲ區分點トシテ選定スルコトハ「ウヰッテ」氏カ寬城子吉林間ノ支線存否如何ニ付報道ヲ得ル迄之ヲ留保スルコトト決シ第七條ニ就キ次ノ如キ文案ヲ確定ト認メタリ

露西亞國政府ハ……旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利、特權及財產及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲ニ經營セラルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且淸國政府ノ承諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス兩締約國ハ前記規定ニ係ル淸國政府ノ同意ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス(英文ハ附屬書第三號)

此ノ外又第三條討議ノ際決シタル所ニ從ヒ(講和會議錄第三號參照)左記ノ文言ヲ本條卽チ第七條ニ關聯シテ記錄ニ留ム

日露兩國全權委員ハ將來ニ於ケル一切誤解ノ原因ヲ避ケムカ爲玆ニ日本國ノ所有ニ歸スル南滿洲鐵道ノ敷設及經營ノ特許ハ門戶開放及均等待遇主義ト相容レサルモノニ非ス又右特許ニ依リテ獲得シタル土地ノ區域內ニ於テ露西亞國皇帝陛下ノ臣民並其ノ他ノ諸外國民ハ日本國皇帝陛下ノ臣民ト同一ノ權利及特權ヲ享有ス可キ旨ヲ聲明ス

次ニ會議ハ露國カ滿洲橫貫鐵道ヲ經營スル方法ニ關スル第八條ノ討議ニ進メリ

小村男爵ハ露國全權委員カ其ノ回答書中ニ於テ鐵道會社ハ千八百九十六年八月二十七日附特許條約ノ條件ヲ格守スヘシ同條約第八項ニハ該線路ニ依リ輸送セラルヘキ露國軍隊及軍需品ハ淸國領土內ニ停留スヘカラサル旨ヲ規定セリト陳述セルハ日本全權委員ノ提議ノ正確ナル意義カ露國全權委員ノ明解スル所トナラサリシコトヲ示スモノノ如シ卽チ淸國ノ領土ヲ通過スル鐵道線ニ依リ露國ノ軍隊及軍需品ヲ輸送スルコトハ該鐵道ヲ全ク商工業ノ爲ノミニ用ヰル主義ニ合セサルモノノ如ク認メラルルト

之ニ對シ「ウヰッテ」氏ハ此ノ輸送ハ平時ニ於テ露國領土ノ一部ヨリ他部ヘ向ケ少數ノ露國兵ヲ移動スル爲ニ行ハルルニ外ナラスシテ露國カ沿海州及沿黑龍江州ヲ領有スルコトハ此ノ措置ヲ必要已ムヲ得サルモノナラシムルコトヲ說明シ而シテ他ノ方法ニヨリ右輸送ヲ行フコトハ到底實行スヘカラサルヲ以テ此ノ措置タルヤ該鐵道ニ依リ輸送セラルル露國軍隊及軍需品ハ淸國領土內ニ於テ停留スヘカラストノ條件ニ服スル以上ハ全ク商工業ノ爲ニノミ同鐵道ヲ用ヰルノ主義ト相反スルモノニ非サル旨ヲ確言セリ

小村男爵ハ只日本全權委員提議ノ意義ヲ明白ナラシメムコトヲ欲シタルニ過キス而シテ此ノ提議ハ滿洲ニ於ケル鐵道ヲ全ク商工業ノ爲ノミニ用ヰ決シテ軍事的ニ之ヲ用ヰサルコトヲ確定シ置カムトノ目的ニ出テタルモノナリト述ヘタリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

「ウ井ッテ氏ハ露國ハ右ノ主義ニ關シ約束ヲ爲スコトヲ承諾スヘシ尤モ日本カ自ラ滿洲ニ於テ保持經營スヘキ鐵道ニ關シ同一ノ約束ヲ受諾スルコトヲ條件トスヘシト云ヘリ」

小村男爵ハ日本國ノ約束ハ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ在ル鐵道ニハ適用セサルコトヲ條件トシテ右相互的提議ニ同意シタルヲ以テ第八條ハ左ノ如ク決定セラレタリ

日本國及露西亞國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道ヲ全ク商工業ノ目的ニ限リ保有經營シ決シテ軍略ノ目的ヲ以テ之ヲ保有經營セサルコトヲ約ス該制限ハ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニハ關係ナキコト勿論ナリトス(英文ハ附屬書第四號)

會議ハ午後一時ヨリ三時マテ休止セラレ同六時三十分終了シタリ

小村壽太郎(記名)
高平小五郎(記名)
セルジ、ウ井ッテ(記名)
ローゼン(記名)

附屬書第一號

第七　日本國全權委員ハ本條カ主義ニ於テ露西亞帝國政府ノ承諾スル所トナリタルコトヲ領ス哈爾賓旅順口間ノ鐵道敷設經營ノ權利ハ遼東半島租借ノ重要部分ヲ成スモノナリ從テ該鐵道カ其ノ全部分及全延長ニ亙リ其ノ敷設及現時經營ノ因テ來レル根本タル右租借ト運命ヲ共ニセサルヘカラサルハ論理上ノ結果ナリ加之兩鐵道線路ノ自然ノ區分點ハ此ノ兩線ノ交叉點ニアリ又清國カ直チニ該線買收ノ權利ヲ行フコトニ就テハ日本國全權委員ハ日本帝國政府カ本問題ニ於ケル鐵道線路ヲ保有經營スルコトハ清國ノ買收權ニ關スル特許條約ノ規定及其他ノ條件ニ準據シ露西亞帝國政府カ滿洲橫貫鐵道線路ヲ保有經營スルト同樣ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘキコトヲ聲明セムコトヲ欲ス

附屬書第二號

附屬書第一號ト同文(附屬書第一號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第三號

本文所揭第七條確定案ト同文(同確定案佛文英譯ナリ)

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

附屬書第四號

本文所揭第八條確定案ト同文(同確定案佛文ノ英譯ナリ)

附屬書第五號

八月十六日午前ノ會議ニ於テ第七條ヲ討議シ午後一時ニ至リ休憩セリ

附屬書第六號

八月十六日午後ノ會議ニ於テ第七條及第八條ヲ討議シ第七條ハ主義上協定セラレ第八條ハ一致ヲ以テ承諾セラレタリ會議ハ午後六時半ニ於テ明朝九時半迄休會セリ

講和會議錄第六號

明治三十八年八月十七日ノ會議
午前九時四十五分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏
落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ドゝプランソン」氏「コロストヴヱッツ」氏「ナボコフ」氏

日本全權委員ハ軍費拂戻ニ關スル第九條ノ討議ニ入ラムコトヲ提議シ本件ニ關シ新ニ一ノ覺書(附屬書第一號)ヲ會議ニ提出セリ

露國全權委員ハ右ノ覺書ニ對シテハ必ス書面ヲ以テ回答スヘシト雖本件ニ就テハ既ニ講和會議錄第二號附屬ノ一般回答書中頗ル明截ニ其ノ所見ヲ披瀝シタルヲ以テ再ヒ同一問題ヲ討議スルノ必要ヲ認メサル旨ヲ答ヘタリ

日本全權委員ハ然ラハ露國全權委員ニ於テハ本件ニ關シ雙方意見ヲ異ニスル理由ニ關シテヲ討議ヲ拒マムトスルヤト問ヒ且互ニ交讓ノ精神ヲ以テ本問題ヲ審議スルコトハ妥協ニ達スルノ最良徑ナルヘシト信スル旨ヲ述ヘタリ

露國全權委員ハ雙方意見ヲ異ニスル理由ヲ明確ニスルヲ爲友誼的討議ヲナスコトハ敢テ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

拒ム所ニアラサルモ而モ本件ノ討議ニ全然恰適スヘキ新基礎ノ發見セラレサル以上ハ討議ノ目的ヲ達シ以テ爾カク相徑庭セル雙方ノ所見ヲ調和スルコトノ可能ナルヲ見ス露國全權委員ニ於テハ其ノ回答書ニ於テ此ノ機微ナル問題ニ關スル商議ノ基礎トナリ得ヘキモノトシテ日本國カ人道ノ目的ニ支出シタル某々費用拂戻ノ議ニ就キ會議ノ注意ヲ喚起シ以テ叙上ノ趣旨ニヨリ妥議ヲ爲サムコトヲ試ミタリ若シ夫レ所謂軍費拂戻ノ如キハ全然露國ノ現實ノ地位ト相應セス露國ハ其ノ威嚴ト相容レサル條件ニ服セムヨリハ寧ロ再ヒ干戈ヲ執ラムコトヲ欲スルモノナリト述ヘタリ

右ニ對スル小村男爵論辯ノ要領左ノ如シ

露國カ戰爭ヲ繼續スルノ力アルハ之ヲ認ムト雖モ日本モ亦戰爭ヲ繼續スルノ力アルヲ認知スルヲ得ヘシ然レトモ而モ之ヲ既往一年有半ノ經驗ニ徵スルニ將來ノ事亦明カニ豫知スルヲ得ヘシ然レトモ本會議刻下ノ問題ハ事局ヲ極端ニ推進セシムルニ先チ一箇ノ解決ヲ發見セムトスルニ在リ露國ニシテ其ノ國家利益ノ全般ヲ考量スルニ於テハ多少金錢上ノ犧牲ヲ供シ以テ其ノ一層重大ナル國利ヲ防護スルノ得策ナルヲ知ルナラム古ヘヨリ世界ノ大强國ニシテ此ノ種ノ事情ニ際シ犧牲ヲ供シタルモノ往々之アリ日本ノ提出シタル頗ル穩當ナル講和條件ハ專ラ今日迄ニ得タル戰爭ノ結果ニ顧ミ案出セラレタルモノニシテ而モ右ノ結果ニ比スレハ實ニ輕少ナルモノナリトス若シ戰運露國ニ利アリシナラムニハ露國ハ之ニ比シ頗ル苛酷ナル條件ヲ呈出シタルヘキハ過去ノ歷史ノ證スル所ナリ日本カ有利ニ戰爭ヲ繼續シ得ルコト頗ル確實ナルノ位置ニ在ルニ拘ハラス斯クモ謙讓ナル條件ヲ

提出シタル所以ハ全ク誠實ニ人道ノ主義ヲ重ンシ兩國共通ノ利益ノ爲將タ人類全般ノ慶福ノ爲平和ノ局ヲ結ハムコトヲ熱望シタルニ由ル兩國互ニ干戈相爭フノ間他ノ諸國ハ孰レモ全力ヲ經濟上ノ競爭ニ傾注シ各其ノ地歩ヲ占メツツアルニ拘ハラス兩國ハ之カ後ニ瞠若タリ戰爭ヲ終止シ世界ノ經濟的競爭ニ復歸スルハ兩國眞正ノ利益ナリトス」

右ニ對シ「ウ井ッテ」氏ハ左ノ趣旨ヲ陳述セリ

露國ハ平和ヲ希望スト雖モ而モ代價ノ如何ヲ問ハス平和ヲ求ムルノ已ムヲ得サルニ立到レルニアラス露國ハ要スレハ戰爭ヲ繼續スヘク之カ爲必要ノ方法ヲ得ルコトハ屈辱的平和ヲ買フニ比シ一層容易ナリ且夫レ將來ニ於ケル戰爭ノ結果ニ關シ臆斷ヲ爲スコトハ之ヲ愼マサルヘカラス日本全權委員ノ提出セラレタル條件ハ人道及平和ノ感情ヲ表彰セル穩當ノモノニアラス却テ日本カ目下ノ形勢ニ乘シ其ノ心中將來ニ豫期セル軍事的成效ヲ計量シテ苟モ可能ト思惟セル所ノモノハ擧ケテ之ヲ露國ヨリ奪取セムトスルノ意思ナルコトヲ證明スルモノナリ若シ露國ニシテ同樣ノ地位ニアラムカ露國ハ其ノ敵國ノ首府ヲ占領セサル間ハ決シテ軍費ノ拂戻ヲ要求セサルヘシ日本ハ其ノ既成事實ト土地占領トヲ以テ既ニ確定シタルモノト爲スト雖モ國際法ニ於テハ土地ハ之ヲ占領スルノミヲ以テ足レリトセス又之ヲ保有シ得ルコトト爲ササルヘカラス戰爭ヲ終止シ世界ノ經濟的競爭ニ復歸スルコト兩國ニ取リ得策ナルヘシトノ小村男爵ノ所見ハ氏ノ全然贊成スル所ナリト雖モ氏ハ日本全權委員ニ於テハ右ノ目的ヲ達セムトノ誠實ナル意思アルモノト認ムルヲ得ス今日迄ノ談判ニテハ露國ハ苟モ讓歩シ得ヘキ點ニ就テ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

ハ各問題ニ關シ悉ク讓歩シ來リタリ而モ今ヤ露國ノ威嚴ニ關シ且最早讓歩ヲ爲シ得サル點ニ達セリ

右ニ對シ小村男爵ハ今日迄「ウ井ッテ」氏ノ認メテ以テ露國ノ讓歩トナス所ハ實際單ニ既存ノ事態ヲ展列シタルニ過キス而モ右ノ事態タル必スシモ露國ノ承諾ヲ要スルモノニアラサルナリ故ニ露國ニシテ苟モ交讓ノ眞意ヲ有ストセハ日本ノ連戰連勝ニ基ケル本要求ノ正當ナルヲ認ムルハ緊要缺クヘカラサル所ナリ且夫レ所謂既成事實ニ就テスラ「ウ井ッテ」氏ハ其ノ重要ナル一事項ヲ承認スルコトヲ拒絶シタルニアラスヤト述ヘタルニ「ウ井ッテ」氏ハ日本軍カ薩哈嗹島ヲ占領セル事實ハ之ヲ認ムト雖モ而モ條約ニ依リ承認セラレサル以上ハ右ノ事實ニ合法的效力アルコトヲ認メスト答ヘタリ

上記意見ノ交換アリタル後兩國全權委員ハ第九條ニ就テハ意見合致ニ至ラサルコトヲ認メタル上次ノ條款ニ移ルコトニ決シタリ

午後零時四十五分ヲ以テ休憩シ更ニ三時ヨリ會議ヲ開クコトトセリ

午後三時再開

露國全權委員ハ午前ノ會議ニ於テ日本全權委員ノ提出シタル第九條ニ關スル覺書ニ對シ回答書ヲ會議ニ提出シタリ(附屬書第二號)

會議ハ日本提出案第十條卽チ中立港抑留軍艦交付ノ要求ニ關スル條款ノ討議ニ進メ

リ

露國全權委員ハ其ノ回答書ニ於テ旣ニ此ノ種ノ要求ハ國際法並露國ノ威嚴ニ戻ルコト從テ露國代表者ノ受諾スル能ハサル所ナル旨ヲ陳辯シタリシカ本日ノ會議ニ於テ日本全權委員ヨリ其ノ見地ヲ支持スル爲新タニ一ノ覺書ヲ露國全權委員ニ交付セリ(附屬書第三號及第四號)

露國全權委員ハ右覺書ヲ閱讀シタル後其ノ所說ニ同意スル能ハサル旨ヲ聲明シ一軍隊又ハ一軍艦ニシテ中立國ノ領地又ハ港內ニ避難シタルモノハ武裝ヲ解除スルヲ要スルモ敵ニ交付セラルヘキモノニアラサルハ國際法ノ原則タリ若シ雙方所見ノ岐ルル所單ニ此ノ問題ノミニ關ストセハ之ヲ國際仲裁裁判所ニ提起スルモ可ナリ而モ其ノ下スヘキ判決如何ニ就テハ幾ムト疑ヲ容レサルナリト述ヘタリ

小村男爵ハ之ニ對シ日本カ本項要求提出ノ根據トスル所ハ左ノ諸點ニ在リト答ヘタリ」

清國ハ戰爭ノ當初ニ於テ嚴正中立ヲ守ルノ意思ヲ聲明シタリト雖モ毫モ中立國ノ義務ヲ果スニ必要ナル實力ヲ具ヘタルコトナシ然ルニ露國軍艦ハ海戰中損害ヲ受ケ(茲ニ問題トナレルハ海戰ニ因ル損傷ノ結果抑留セラレタル軍艦ノミ)清國ノ港口ニ避難シ而シテ清國中立規則ニ依レハ右等軍艦ハ二十四時間內ニ出港スルニアラサレハ武裝ヲ解除スルコトヲ要スルニモ拘ハラス數週ニ亙リ何等ノ處決ヲ爲サス彼等カ遂ニ武裝ヲ解除シタルモ是レ其ノ任意ノ行爲ニ非ス又清國官憲ノ處分ニモアラス一ニ日本海軍ノ威壓ノ結果ナリトス右等ノ事情ニ際シ日本海軍ハ其ノ交戰權ヲ防護セムカ爲清國ノ港口ニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

入リ之ヲ實行スルノ權利ヲ有シタリシハ爭ヲ容レサル所ナリ而モ日本海軍カ上海ニ於テ此ノ擧ニ出テサリシモノハ全ク開戰當初ニ爲シタル日本ノ宣言ヲ守リ諸外國ノ商業上ノ利益ヲ害セムコトヲ避ケムカ爲ニ外ナラス

「ウ井ッテ」氏ハ此ノ點ニ關スル國際法ノ原則ハ氏ニ於テ全然小村男爵ト見解ヲ異ニス交戰國艦隊カ中立港ニ入リ其ノ敵ニ對シ戰爭行爲ヲナスノ權アリトハ氏ノ未タ曾テ聞カサル所ナリ氏ノ見ル所ニ於テハ日本海軍ノ執ルヘキ途ハ一アリシノミ卽チ公海ニ於テ露國軍艦ヲ待受ケ其ノ中立港ヲ出テタル時之ヲ攻擊スルニ在リ然ルニ事實ハ如何露國軍艦ハ武裝ヲ解除シ戰爭ノ終ニ至ルマテ中立港ニ止マリタルモノナリ戰爭一度終ヲムカ右軍艦ノ孰レノ國ニ屬スヘキ歟ニ就テハ一點ノ疑問アルナシ故ニ氏ハ本件ニ關スル自己ノ意見ヲ變更スル能ハス又日本ノ要求ノ正當ナルヲ認ムル能ハスト云ヘリ

小村男爵ハ右ニ對ヘテ國際法ノ原則並先例ニ依レハ若シ中立國ニシテ其ノ義務ヲ履行スル能ハサルトキハ交戰國ハ中立國ノ領域內ニ於テ自ラ其ノ交戰權ヲ實行スルヲ得ヘシ而モ日本カ戰爭中右ノ權利ヲ實行セサリシハ露國トノ商議ニ際シ之ヲ處理セムトノ考ナリシヨリ以テナル旨ヲ述ヘタリ

討議ノ結果雙方全權委員ノ所說ノ調和ヲ見ルニ至ラサリシヲ以テ雙方全權委員ハ右ノ異見ヲ認メタル上第十一條ノ討議ニ移ルコトニ決セリ

右條款ハ日本提出ノ原案ニハ左ノ通リ掲ケアリ

露西亞國ハ極東水上ニ於ケル其ノ海軍力ヲ制限スルヲ約スルコト

露國全權委員ハ其ノ回答書ニ於テ左ノ如ク述ヘタリ

外國ノ爲ニ此ノ如キ約務ヲ課セラルルコト是亦露西亞國ノ威嚴ト相容レサルヲ以テ露西亞國ハ之ニ同意スルコト能ハス但シ帝國政府ハ近キ將來ニ於テ太平洋ニ著大ナル海軍力ヲ維持スルノ意向ヲ有セサルコトハ之ヲ聲明シ得ヘシト信ス

露國全權委員ハ右ノ回答ヲ確ムルト同時ニ右ノ文言ニ變更ヲ加ヘスシテ之ヲ會議錄ニ書キ留メ又ハ他ノ公文ニ掲クルニ異議ヲ有セサル旨ヲ述ヘ尙本件ニ關シテハ特別ノ宣言書ヲ作成シ露國兩全權委員ニ於テ之ニ記名シ露國皇帝陛下ノ裁可ヲ仰クコトトスヘキ旨ヲモ提議セリ

日本全權委員ハ主義ニ於テ右ノ所言ニ異存ナキモ露國全權委員ノ提議シタル宣言案ノ文言ハ甚タ漠然トシテ日本國ノ安全ニ關スル本問題ノ重要ニ應スルニ足ラスト述ヘ特ニ露國ハ從來「バルチック」海又ハ黑海ニ於テ充分ノ海軍力ヲ維持スヘキ利害關係アルニモ拘ハラス日本ニ對シ優勝ノ海上權ヲ占メムカ爲絕ヘス強勢ナル軍艦ヲ極東ニ增派シタルコト故所謂著大ナル海軍力」ナル語ハ其ノ意義ヲ精確ニスルノ必要アリト主張セリ之ニ對シ「ウ井ッテ」氏ハ或時期ニ於テ著大ト認メラルヘキモノモ他ノ時期ニ於テ然ラサルコトアルヘキヲ以テ右ノ語意ヲ精確ニスルハ頗ル困難ナリ且兩國ニシテ其ノ良好關係ヲ維持スルノ誠意アル時ハ文字ノ如キハ別ニ重ヲ置クニ足ラサル所ナリト答ヘタリ」

日本全權委員ハ前顯宣言案中意義不確實ニシテ其ノ意見ニ依レハ爰ニ之ヲ判然決定スルヲ要スト認ムル「近キ將來」ナル語ニ對シ露國全權委員ノ注意ヲ喚起シ斯ノ如キ漠然ナ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

ル文案ハ日本全權委員ノ希望セル結果ヲ生スルニ足ラサルモノナリト述ヘタリ

露國全權委員ハ右ノ文意ヲ更ニ一層精確ニスヘキ語法アルヲ見スト答ヘ本件第十一條ノ討議ヲ次會ニ延期セムコトヲ提議セリ

日本全權委員ハ右ノ提議ヲ承諾シ午後六時三十分ヲ以テ散會セリ

小村壽太郎（記名）

高平小五郎（記名）

セルジ、ウ井ッテ（記名）

ロ　ー　ゼ　ン（記名）

附屬書第一號（英佛兩文）

第九　日本國全權委員ハ本條ニ關スル露西亞國全權委員ノ所說ニ對シ最モ愼重ナル考量ヲ加ヘタルモ露西亞國全權委員カ本件日本國ノ要求ヲ認諾スルコトヨリ演繹セムト欲スル所ノ結論ニハ同意ヲ表スルコト能ハス右日本國ノ要求ヲ認諾スルコトハ決シテ露西亞國ハ今後戰爭ヲ繼續スル能ハストノ推論ヲ生スヘキモノニ非ス日本國全權委員ハ露西亞國ニ對シ屈辱的性質ヲ有シ又ハ大國ノ威嚴ノ眞正ナル意義ト相容レサルカ如キ條件ヲ要求スルノ意思毫モ之アルナク却テ事ノ實際ニ鑑ミ軍費拂戻ノ主義ヲ認諾スルハ日本軍カ是迄常ニ成效ヲ博シタル歷史的事實ヲ認識スルニ外ナラサルコトハ文明世界ノ普ク異論ナキ所ナルヘキヲ信ス

日本國ノ要求ハ毫モ間接若ハ因緣的性質ノモノヲ包含セス嚴ニ戰爭ノ直接實費ノミニ制限セラレタルモノニシテ該範圍迄ハ日本帝國政府ニ於テ拂戻ヲ受クル正當ノ權利アルモノト確信ス故ニ日本國全權委員ハ該要求ヲ拋棄スルコト能ハス然レトモ實際用ウヘキ形式並拂戻金額整定ノ問題ニ關シテハ日本國全權委員ハ交讓妥協ノ精神ヲ以テ之ヲ議セムトスルノ覺悟ナルヲ以テ露西亞國全權委員ニ於テ右等ノ事由ニ鑑ミ本件ヲ再考セラレムコトヲ熱望スルノ已ムヲ得サルヲ感ス

附屬書第二號

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

露西亞國全權委員ハ日本國ニ向ヒ軍費ヲ拂戻スコトニ關スル箇條ニ付日本國全權委員ヨリ交付セラレタル覺書ニ對シ愼重ナル考量ヲ加ヘ日本國全權委員カ該要求ヲ提出スルニ當リ毫モ露國ニ向ヒ大國ノ威嚴ト相容レサル提議ヲ爲スノ意思ナカリシコトノ聲明ヲ領シ玆ニ滿足ノ意ヲ表ス

然レトモ露西亞國全權委員ハ戰爭ヲ終止スルヲ得ヘキ妥協ヲ爲サムトスル最モ誠實ナル希望ヲ懷クニ拘ハラス露國ニ於テ苟モ其ノ敵國ニ對シ彼カ軍事上如何ナル大成效ヲ博シ得タリトスルモ軍費拂戻ヲ約束スヘキ講和條約ニハ到底記名スル能ハサル旨ヲ明截ニ聲明スルノ已ムヲ得サルヲ感ス

抑モ露國ハ今日ニ至ル迄軍事上幸運ニ際會セスト雖モ未タ戰勝國ノ意思ニ屈服スヘキ戰敗國ノ地位ニ陷リタルモノニ非サルカ故ニ之ニ對シ軍費拂戻ヲ請求スルカ如キハ之ヲ國際關係ノ歷史ニ照スモ又之ヲ衡平ノ原理ニ律スルモ到底正當ナリト云フヲ得サルヘシ

前陳ノ理由ニ依リ叙上ノ處理ニ適應セシメムカ爲用ウヘキ形式並拂戻金額ノ整定ニ關スル攻究ハ無益ニ屬スルモノナリトス

附屬書第三號

第十　日本國全權委員ニ於テ本件要求ヲ提出シタルハ該要求ノ承諾セラレタル場合ニ日本國ニ移屬スヘキ物質的利益ニ基クヨリハ寧ロ其ノ國際法ノ原則ニ適合スルヲ確信シタルニ基クモノナリ本件要求ニ對シ國際關係上適切ナル先例ノ之ヲ支持スヘキモノナキハ疑ナキ事實ナリト雖モ是レ古來未タ曾テ交戰國ノ軍艦カ戰鬪ノ結果ニ因リ中立港灣ニ避難シ抑留セラレタルノ事實ナキニ基因スルモノナリ若シ本件軍艦ニシテ長期ノ避難ヲ許容セラレサリシナラムニハ其ノ大部分ハ遂ニ日本軍ノ手ニ落チタリシナルヘシ交戰國軍艦カ中立國港內ニ避難シ以テ戰鬪ノ結果ヲ逃ルルコトハ正義ノ原則ト相容ルルモノト見ルヲ得ス又國際義務ノ遂行ニ關シテハ何等國家ノ威嚴ナル問題ノ存スヘキ理ナシ而シテ日本國全權委員ノ要求スル所ハ單ニ戰鬪中損害ヲ被フリタル艦船ニノミ關スルモノナリ依テ日本國全權委員ハ該要求ヲ維持スルノ正當ナルヲ信ス

附屬書第四號

附屬書第三號ト同文(附屬書第三號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第五號

八月十七日午前ノ會議ハ第九條ヲ討議シタルモ雙方全權委員ノ合意ヲ得ル能ハサリシ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

ヲ以テ全權委員ハ意見ノ相違ヲ認メ午後三時迄休會セリ

附屬書第六號

八月十七日午後ノ會議ハ第十條及第十一條ヲ討議セリ第十條ニ關シテハ雙方意見ノ相違アリテ合致スルヲ得ス又第十一條ニ關シテハ更ニ討議ヲ爲スコトトシ明十八日迄休會セリ

講和會議錄第七號

明治三十八年八月十八日ノ會議

午前十時開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プランソン」氏「コロストヴエツ」氏「ナボコフ」氏

兩國全權委員ハ前回ノ會議ニ於テ開始シタル第十一條ノ討議ヲ繼續スルコトニ決定シ小村男爵ハ日本全權委員ハ最モ愼重ニ右第十一條ヲ研究シタレトモ到底日露兩國ヲ滿足セシムヘキ宣言書ノ形式ヲ發見スルノ困難ナルヲ認メタル旨及此際特別ナル一箇ノ宣言ヲ爲サムト欲スル旨ヲ聲明セリ(附屬書第一號及第二號)

尋テ同男爵ハ此ノ宣言ヲ記載シタル文書ヲ提出シタリ

右畢リテ兩國全權委員ハ非正式會議ニ入レリ

本會議ハ午後三時半再ヒ開始セラレ兩國全權委員ハ第十一條ニ關スル雙方意見ノ相違ヲ認メタル上露領沿岸ニ於ケル漁業問題ヲ規定シタル第十二條ノ討議ニ移ルコトニ決定セリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

日本全權委員ノ提出ニ係ル本條草案ニハ露西亞國ハ日本海「オコーツク」海及「ベーリング」海ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸、灣、港、入江及河川ニ於テ充分ナル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與スヘキコトアリタルニ露國回答書ニ於テ露國全權委員ハ露國ハ本問題ニ關シ日本ト協定ヲ爲スノ意向ナルモ右漁業ノ權利ハ獨リ海洋ニ瀕スル沿岸ニノミ及ヒ入江及河川ニ及ハス且既存ノ權利ハ依然效力ヲ有セサルヘカラサル旨ヲ說明セリ而シテ日本全權委員ハ叙上ノ條件ニ同意ヲ表シタルニ依リ第十二條ノ文言ハ左ノ如ク確定セラレタリ

露西亞國ハ日本海「オコーツク」海及「ベーリング」海ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸ニ於ケル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與セムカ爲日本國ト協定ヲナスヘキコトヲ約ス而シテ前記方面ニ於テ既ニ露西亞國臣民又ハ外國臣民ニ屬スル所ノ權利ノ依然效力ヲ有スヘキハ言ヲ俟タス

會議ハ午後四時半ニ終了シタリ

小村壽太郎（記名）
高平小五郎（記名）
セルジ、ウイッテ（記名）
ローゼン（記名）

附屬書第一號

日本國全權委員ハ是迄雙方意見合致ニ至ラサル諸問題ヲ滿足ニ調整セムトスル誠實ナル希望ヲ懷クニ依リ若シ露西亞國全權委員ニ於テ調和ノ精神ヲ以テ薩哈嗹島割讓及軍費拂戻ノ問題ヲ考量スルノ意向ナラムニハ日本國全權委員ハ海軍力制限及抑留軍艦交付ニ關スル條件ヲ撤回スヘキ覺悟ナル旨ヲ宣言ス

附屬書第二號

附屬書第一號ト同文（附屬書第一號英文ノ佛譯ナリ）

附屬書第三號

八月十八日午前ノ會議ニ於テ兩國全權委員ハ第十一條ノ討議ヲ繼續シ午後ノ會議ニ於テモ之ヲ繼續スヘキ筈ナリ

附屬書第四號

八月十八日午後ノ會議ニ於テ兩國全權委員ハ第十一條ノ事項ニ關シ意見ノ合致ヲ見ル

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

ニ至ル能ハサリシニ依リ講和條件第十二條卽チ末條ノ討議ニ移リタルカ雙方ノ意見全ク一致セリ而シテ次回ノ會議ハ八月二十二日午後三時ニ開カルヘシ

講和會議錄第八號

明治三十八年八月二十三日ノ會議
午後二時三十分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏
落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ドゝブランソン」氏「コロストヴエツ」氏「ナボコフ」氏

兩國全權委員ハ前數回會議ニ關スル會議錄ニ記名セリ

「ウヰッテ」氏ハ講和會議ノ事業ハ今ヤ日本全權委員ヨリ提出セラレタル條件ノ大部分ニ付協議成立ヲ見ルニ至リタレトモ未タ意見一致ニ至ラサルモノ四項アリ就テハ右意見相違ノ原因ヲ探究シ以テ出來得ル丈之ヲ排除セムコトヲ努ムルコト蓋シ有益ナルヘシト述ヘタリ

小村男爵ハ日本全權委員ニ於テモ右ニ同意ナリト答ヘ今回ノ商議中日本全權委員ハ其ノ講和條件ノ穩當ニヨリ將又薩哈嗹島割讓並軍費拂戻ノ問題ニシテ滿足ニ處理セラルルニ於テハ第十及第十一ノ二條件ヲ撤回スヘシトノ提議ニヨリ日本政府カ戰爭ノ慘禍ヲ終止セシメムトスル誠實ナル希望ヲ有スルコトヲ表彰シタルハ其ノ自ラ滿足スル所

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

ナリト述ヘ今又日本政府ノ誠意ニ對シ新タナル一表證ヲ加ヘムカ爲更ニ讓歩ヲ進メ玆ニ露國全權委員ニ對シ相互的讓歩ノ方案ヲ提出セムトス右ノ方案ハ極メテ重要ナルモノニ付同委員ニ於テハ最モ愼重ナル考量ヲ之ニ加ヘラレムコトヲ希望スト附言シ「ウヰッテ」氏ニ向テ一ノ覺書(附屬書第一號及第二號)ヲ手交シ是レ日本全權委員カ政府ノ認可ヲ以テ提議スル所ノ相互的讓歩案ヲ載セタルモノナリト陳述セリ

「ウヰッテ」氏ハ露國全權委員ニ於テモ兩國ノ協商ヲ成立セシメ以テ世界ヲ痛心セシムル此ノ戰爭ヲ終止セシメムカ爲本會議中出來得ル限リノ力ヲ竭シタリ而シテ今日本全權委員カ雙方ノ企圖セル平和ノ目的ニ對シ新タニ一歩武ヲ進メラレタルハ露國全權委員ノ頗ル感謝スル所ナリト述ヘタリ然レトモ「ウヰッテ」氏ハ自己ノ意見ヲ吐露スルニ先チ問題ニ關スル位地ヲ善ク確メ置クヲ必要トシ日本全權委員ニ於テハ形式ノ如何ヲ問ハス俘虜給養費以外ノ軍費拂戻ノ思想ヲ一切脫却セルヤ協定又ハ融合案ヲ成立セシメ得ヘシト思惟セサルヤヲ知ラムト欲スト云ヘリ

小村男爵之ニ答ヘテ曰ク日本全權委員ノ提出セル方案ハ薩哈嗹島讓與及軍費拂戻ノ二大問題解決ニ關スル一切ノ困難ヲ排除スルノ目的ヲ以テ作成セラレタルモノニシテ此ノ提案ニシテ採用セラルル所トナラムカ一方ニ於テハ日本政府カ其ノ領有ヲ緊要トシ特ニ今現ニ占領中ナル事實ニ鑑ミ一層其ノ然ルヲ認ムル所ノ薩哈嗹島問題ニ關スル妥協トナリ他ノ一方ニ於テハ露國全權委員カ拂戻ノ名義ノ下ニ仕拂フコトヲ不能トセル軍費問題ニ關スル妥協トナルヘシ且本案ノ形式タルヤ露國全權委員カ頗ル強固ニ維持

シタル異議ヲ排除シ同時ニ薩哈嗹島北部ヲ露國ニ還附スル一方法ナリトス而シテ日本國ハ右還附ニ關シ領收スルヲ正當ナリト思料スル金額ヲ領收スルヲ要ス終ニ軍費拂戻要求ノ撤回ハ前揭覺書ニモ述ヘタル如ク本妥協案ノ受諾ヲ條件トスルニアラサレハ行ハレサルモノナルコトハ是レ露國全權委員ノ省慮ヲ乞ハントスル所ナリト

「ウヰッテ」氏ハ根本ノ問題ニ論及スルニ先チ全然個人的ノ假定トシテ日本全權委員ノ所見ヲ叩カムト欲スル他ノ一點卽チ左ノ如ク記述シ得ヘキモノアリト述ヘタリ

露國ニ於テ薩哈嗹全島ヲ日本ニ讓與スト假定セムニ日本ハ右ノ條件ニテ金錢上ノ拂戻ニ關スル一切ノ思想ヲ拋棄スルヲ得ヘキヤ否ヤ

小村男爵ハ若シ右ノ如キ協定ニシテ成立スルヲ得ヘクムハ本問題ノ解決ハ比較的容易ナルヘキモ日本ニ取リテ軍費拂戻ノ要求ヲ拋棄スルノ困難ナルハ薩哈嗹島全部ノ還附ニ同意スルノ困難ナルト同樣ナリ本方案ハ卽チ右ノ困難ニ對シ雙方ヨリ各〻半途迄歩ミ合ヒテ解決ヲ與ヘムトシテ提議スルモノニシテ其ノ要義ハ雙方ノ交讓ニ在テ存スト答ヘタリ

「ウヰッテ」氏ハ日本全權委員カ協商成立ノ爲盡力セラルルハ滿足スル所ナルモ金錢ノ問題ハ右ノ盡力ヲシテ其效ナカラシムルナラムト述ヘ就テハ俘虜給養費ノ外何等費用ノ拂戻ナキコトトシテ以テ本爭議ヲ纏ムルノ方法果シテ之レ無キヤ將又日本全權委員ニ於テ何等他ニ考案ヲ有セラレサルヤ否ヤヲ確メムトスルノ希望ヲ吐露セルニ小村男爵ハ日本全權委員ニ於テハ別ニ他案ヲ發見スル能ハス其ノ見ル所ニ依レハ前揭方案ハ甚

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

タ正當ナルモノニシテ一切ノ困難ヲ除去スルニ適當ナル唯一ノ案ナリト答ヘ然レトモ若シ露國全權委員ニシテ何等他ニ方案ヲ提出セラルルニ於テハ日本全權委員ハ欣然之ニ考量ヲ加フヘシト附言セリ

「ウ井ッテ」氏ハ答ヘテ曰ク本員ニ於テ方案ヲ提議スルコトハ目下ノ事情ニ於テ頗ル困難ナリ然レトモ何等行ハレ得ヘキ融合案ノ要素ヲ求メ出スコトハ第一ノ必要ナリト思考ス而シテ本日ノ意見交換モ全ク右ノ見地ヲ以テスルモノニ外ナラス日本考案ノ要旨ハ日本ハ薩哈嗹島北部ヲ露國ニ讓渡スコト而シテ露國ハ其ノ代リトシテ或金額ヲ支拂フコト

ト云フニ在リ故ニ露國ハ右ノ提供ヲ受諾スルコトヲ得ヘク又拒絶スルコトヲモ得ヘシ若シ受諾シタリトセムカ露國ハ協定セラルヘキ金額ヲ拂ヒ薩哈嗹島ノ半部ヲ保有スルコトトナリ又拒絶スルニ於テハ露國ハ金錢ヲ保有シ薩哈嗹島ヲ棄ルコトトナルナリ就テハ露國ニ於テ右第二ノ辨法ヲ受諾スト假定セム但シ是ハ露國ヨリ爲ス正式ノ提議ニハアラス單ニ日本提出案其物ノ論理的推論ナルコトヲ玆ニ明確ニナシ置クヘシ而シテ右ノ融合案ニ關スル日本政府ノ意見如何ヲ知ラムト欲スト

小村男爵ハ「ウ井ッテ」氏ハ右ノ如キ融合案ヲ以テ妥協案ノ論理的結果ナリト認メラルルモ日本全權委員ノ提出シタル方案ハ軍費拂戻ノ要求ヲ棄テサルノ趣意ニテ提議シタルモノニ付「ウ井ッテ」氏ノ所論ハ假令形式上日本案ノ論理的推論ナリトセムモ實質上ヨリ云ヘハ全然之ニ反スルモノナリト答ヘタリ

此ニ於テ「ウ井ッテ」氏ハ然ラハ本日ノ會議全體ノ經過ニヨリ軍費拂戻ノ思想ヲ全ク含マサル融合案ハ一切日本ニ於テ承諾スル能ハサルモノト結論シテ可ナリヤト質問シタルニ小村男爵ハ然リ今玆ニ提議シタル形式以外ノ融合案ハ總テ承諾スル能ハサルモノナリト答ヘ下ノ如ク說述セリ曰ク此ノ方案ヲ作成スルニ方リ日本全權委員ハ尙數層重要ナル事ヲ考量シタルナリ卽チ本案ニシテ承諾セラレムカ以テ兩國間ニ一切不滿ノ原因ヲ貽スコトナキヲ得ヘシ其ノ故他ナシ本案ノ要旨ハ相互ノ讓歩ニ在リ而シテ此ノ事タル雙方任意ノ行動ニシテ他ノ强制ニ由ルモノニアラサレハナリ依テ露國全權委員ニ於テハ該妥協案ニ適切ノ考量ヲ加ヘラレムコト且又「ウ井ッテ」氏ノ言ハル所ニテハ露國全權委員ニ於テハ本國政府ノ認可ヲ經タル何等ノ解決案ヲ有セラレストノコトナレハ旁〻上記ノ妥協案ハ同政府ノ受諾スル所トナルヘキヤ否ヤヲ知ラムコト是レ日本全權委員ノ熱望スル所ナリト

右ニ對シ「ウ井ッテ」氏ハ小村男爵ノ說明ニ依レハ日本ノ提案ハ其實質ニ於テ新タナル形式ノ下ニ軍費拂戻ノ要求ヲ包含スルモノニシテ該約款ナキ他ノ一切ノ方案ハ日本ノ受諾スル所ナラサルヘキハ全然明瞭トナレル旨ヲ答ヘ且露國ハ俘虜給養費以外ノ軍費拂戻ニ同意スル能ハス從テ本案ハ到底露國ノ受諾ヲ得ヘキ見込ナシト明言セリ

係爭問題ニ關スル兩國政府ノ位地ハ上記ノ討議ニヨリ充分明白トナリタルヲ以テ雙方全權委員ハ本日ノ會議ヲ閉チ八月二十六日(土曜日)ヲ以テ最終會議ヲ開クコトニ決シタリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

新聞通知案(附屬書第三號起草ノ後午後三時三十分ヲ以テ散會セリ

小村壽太郎(記名)
高平小五郎(記名)
セルジ、ウ井ッテ(記名)
ロ　ゼン(記名)

附屬書第一號

一　薩哈嗹島ヲ二分シ北緯五十度以北ノ地ハ露西亞國ニ還附シ該緯度以南ノ地ハ日本國ニ屬セシムルコト

二　日本國及露西亞國ハ宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由航行ヲ阻礙スヘキ何等ノ措置ヲ執ラサルコトヲ互ニ約スルコト

三　露西亞國ハ北緯五十度以北ニ在ル薩哈嗹島一部ノ還附ニ對スル報酬トシテ金拾貳億圓ヲ日本國ニ仕拂フコト

四　上記ノ趣旨ニ於テ協定成立セハ日本國ハ軍費拂戻ニ關スル要求ヲ撤回スルコト但シ此ノ撤回ハ露西亞國俘虜ノ保護及給養ノ爲日本國ノ支出シタル經費ニ及ハサルコト

附屬書第二號

附屬書第一號ト同文(附屬書第一號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第三號

八月二十三日ノ會議ニ於テ前數回ニ關スル會議錄ヲ檢閱シ之ニ記名ヲ了シ次回ハ來ル土曜日卽チ八月二十六日ニ之ヲ開クコトニ決定セリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

講和會議錄第九號

明治三十八年八月二十六日ノ會議
午後四時三十分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏
落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウ井ッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プランソン」氏「コロストヴエツ」氏「ナボコフ」氏

兩國全權委員ハ前回會議錄ニ記名ヲ了シタル後月曜日卽チ八月二十八日ニ於テ會議ヲ開クヘキ旨ヲ決定シ且左記ノ新聞通知案ヲ議定セリ

八月二十六日ノ會議ニ於テ全權委員ハ前回會議錄ニ記名ヲ了シタリ而シテ次回ノ會議ハ八月二十八日午後三時ニ開始セラルヘシ

會議ハ午後四時四十分ニ終了セリ

小村壽太郎（記名）
高平小五郎（記名）
セルジ、ウ井ッテ（記名）
ローゼン（記名）

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

講和會議錄第十號

明治三十八年八月二十九日ノ會議
午前十時五十五分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及講和會議書記官佐藤氏安達氏
落合氏

露西亞國　講和全權委員「ウヰッテ」氏「ローゼン」男爵及講和會議書記官「ド、プランソン」氏「コロストヴエッツ」氏「ナボコフ」氏

兩國全權委員ハ前回會議錄ニ記名ヲ了シタリ

小村男爵ハ八月二十三日ノ會議ニ於テ日本全權委員ノ提出シタル考案(講和會議錄第八號參照)ニ對スル露國政府ノ正式回答ヲ得ムコトヲ請求シタルニ依リ露國全權委員ハ一ノ覺書(附屬書第一號)ヲ同男爵ニ交付セリ該文書ハ同書中所載ノ條件ヲ以テ薩哈嗹島ノ南部ヲ日本國ニ讓與スルコトニ對スル露國皇帝陛下ノ同意ヲ表明シタルモノナリ

日本全權委員ハ該文書ヲ閱讀シタル後本國政府ノ訓令ニ基キ本件ニ關シ特別ノ通告ヲ爲スヘキ旨ヲ陳述シ一ノ覺書(附屬書第二號及第三號)ヲ露國全權委員ニ交付セリ該覺書ハ日本國ノ行ヒタル薩哈嗹島占領ヲ既成ノ事實トシテ露國カ承認スルニ於テハ日本國政府ハ軍費拂戻ノ要求ヲ撤回スルノ意向ナル旨ヲ揭載シタルモノナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

之ニ對シ露國全權委員ハ其ノ皇帝陛下ノ明截ナル命令アルニ依リ前揭ノ條件ニ同意スル能ハサル旨ヲ答ヘタリ

此ニ於テ小村男爵ハ日本國政府ハ平和ヲ克復セムトスルノ誠實ナル希望ヲ懷ク カ故ニ何等金錢ノ仕拂ヲ請求セスシテ薩哈嗹島北部ヲ露國ノ所有ニ殘スコトヲ諾ス但シ其ノ條件トシテ同島南北兩部ノ分界線ハ北緯五十度ヲ襲踏スヘク且前揭露國覺書中ニ揭載セル軍事上措置ニ關スル條件及宗谷海峽並韃靼海峽通航ノ自由ニ關スル約束ハ之ヲ相互的トナスヲ要スル旨ヲ聲明セリ

「ウヰッテ」氏ハ右日本國ノ承諾ヲ領シ且露國ハ從來未タ嘗テ薩哈嗹島ノ內部及沿岸ニ軍事上措置ヲ施シタルコトナク又將來之ヲ施サムトスル意思ナキカ故ニ此ノ點ニ關シ疑念ヲ插ムヘキ理由ナシト雖モ小村男爵ノ意見ニ從ヒ前揭約束ニ相互的ノ價値ヲ附スルコトニ異議ナキ旨ヲ述ヘ又同島南北兩部ノ分界ニ關シテハ主義トシテ北緯五十度ヲ襲踏スヘキコトニ異議ナキモ土地ノ實形ニ從ヒテ右分界ヲ精細ニ定ムルコトハ特別委員ヲシテ實地ニ就キ之ヲ爲サシムヘキモノト認ムル旨ヲ說キ日本全權委員モ此ノ點ニ關シ意見ヲ一ニスル旨ヲ答ヘタルニ依リ本問題ハ解決セラレタリ

右ノ外尙薩哈嗹島ニ關シ日本全權委員カ會議ノ一論題ト爲シタルモノアリ卽チ同島ニ於ケル露國犯罪人置場ノ問題是レナリ此ノ犯罪人置場ノコトタルヤ北海道ト一海峽ヲ隔テタリシ時代ニ於テスラ常ニ日本政府ニ數多ノ困難ヲ感セシメタルモノナルニ依リ日本全權委員ハ露國政府カ敍上ノ事情ニ鑑ミ後來同島北部ニ犯罪人置場ヲ維持スルコト無カラムコトヲ希望セリ

「ウヰッテ」氏ハ之ニ對シ右犯罪人置場ノ問題ハ內務省ノ所管ニ屬シ同氏權限外ノ事項ナルカ故ニ此ノ點ニ關シテハ何等ノ約束ヲ爲スコト能ハサレトモ後來露國カ薩哈嗹島ニ於テ犯罪人置場ヲ維持スルノ必要ヲ認メタル場合ニ於テハ隣人ニ對シ不愉快ノ原因ト爲ラサル樣必ス萬般ノ措置ヲ執ルヘキ旨ヲ確言シ得ヘシト信スト答ヘタリ

此ニ於テ薩哈嗹島ニ關スル問題全ク解決シタルモノト認メラレタルニ依リ第五條文言ノ作成ヲ書記官等ニ委任スルコトトセリ

次ニ「ウヰッテ」氏ハ會議ハ旣ニ諸般ノ重要ナル問題ヲ議了シ今ヤ枝葉及細目ニ關スル問題ニ到著シタルニ依リ兩國專門事項擔當員ヲ列席セシムルノ好機ナルヘキヲ說キ且當日午後ノ會議ニ「ド、マルテンス」「シポフ」「ポコチロフ」及「エルモロフ」諸氏ヲ列席セシメムトスルノ希望ヲ發表セリ

日本全權委員ハ之ニ對シ前記專門事項擔當員ヲ會議ニ列席セシムルコトニハ異議ナク且必要ト認ムル場合ニハ日本ノ專門事項擔當員ヲ會議ニ列席セシムルノ權利ヲ留保スル旨ヲ答ヘタリ次ニ小村男爵ハ會議ニ於テ全權委員カ議決スルコトヲ要スト信スル左記主義上ノ諸問題ヲ先ツ提出セムト欲スル旨ヲ告ケタリ

一　滿洲撤兵方法ノ件

二　滿洲ニ於ケル雙方鐵道區分點確定ノ件

三　鐵道保護ノ件

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

右第一點ニ關シテハ條約第二條(會議錄第三號參照)ニ於テ滿洲撤兵ハ追加約款ノ規定ニ從テ之ヲ爲スヘシト明記シアリタルカ故ニ小村男爵ハ本件ニ關スル日本政府ノ作成シタル特別ノ方案(附屬書第五號及第六號)ヲ露國全權委員ニ示シ同委員ニ於テ該案ヲ研究シテ其ノ意見ヲ發表セラルルカ若ハ他案ヲ提議セラレタキ旨ヲ陳述セリ

「ウ井ッテ」氏ハ之ニ答ヘテ滿洲撤兵ノ件ハ全ク特別ノ問題ニシテ主トシテ鐵道輸送力及地方ノ狀況ニ依ルモノナルカ故ニ玆ニハ只協約ノ主要ナル基礎ヲ敍述スルコトヲ得ルノミ其ノ基礎ハ大要下ノ如クナルヘシ卽チ(一)撤兵ヲ實行スルニ方リ滿洲ニ殘留スル日露兩國軍隊ノ數ハ各時期ニ於テ略同一ナラシムル樣之ヲ爲スヘシ(二)軍隊ハ先ツ前面陣地ヨリ之ヲ撤退スヘキコト及(三)右原則ハ撤兵方法及時期ニ關シ兩國軍司令長官ノ間ニ締結スヘキ條約ノ基礎トナルヘキコト是レナリト言ヘリ

小村男爵ハ講和條約ニ於テ單ニ撤兵問題ニ關スル主要ノ基礎ノミヲ規定スルコトニハ故障ナキ旨ヲ陳ヘ「ウ井ッテ」氏ニ對シ其ノ考案ヲ提出セムコトヲ以テシタルニ同氏ハ之ヲ諾セリ

小村男爵ノ提出シタル第二ノ問題ハ講和條件第七條ニ揭ケタル兩國鐵道ノ區分點確定ノ件ニシテ此問題ハ寬城子吉林間鐵道ノ存否ニ關スル精確ナル報道ノ達スル迄延期セラレタルモノナリ(講和會議錄第五號參照)然ルニ今ヤ露國全權委員ハ前記鐵道ノ未タ存在セサルコトヲ確メタル回答ヲ得タルヲ以テ同委員カ前記寬城子若ハ日本ノ所有ニ屬スヘキ他ノ停車場ヨリ吉林ニ至ル迄ノ鐵道支線ヲ敷設スルコトニ異議ナキ旨ヲ聲明スルコトヲ承諾シ次ニ兩國全權委員ハ寬城子ヲ以テ日露兩國鐵道ノ區分點ト爲シ此ノ趣旨ニ依リ第七條ノ文言ヲ完成スヘキコトニ決定セリ

第三ノ問題ハ滿洲鐵道ノ保護ニ關セリ日本全權委員ハ一ノ覺書ヲ會議ニ提出シ(附屬書第六號及第七號講和條約附屬議定書ノ形式ヲ以テ日露兩國政府ハ一「キロメートル」ニ付五人ヲ超過セサル鐵道守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保スルコトヲ規定スル特別ノ協定ヲ爲サムコトヲ發議セリ

「ウ井ッテ」氏ハ之ニ對シ滿洲鐵道守備ニ必要ナル兵數ヲ今日確定スルコトハ困難ナル事業ニシテ最初淸國人民ノ態度ニ關シ未タ安心ノ域ニ達セサル間ハ右兵數ハ尙夥多ナルヲ要スヘク滿洲ノ情況常態ニ復スルニ及ヒ漸次之ヲ減少スルヲ得ヘシ依テ兩國ノ爲ニ最モ便利ナル方法ハ兩國政府各鐵道守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保シ其ノ數ハ鐵道ノ延長ニ從ヒ雙方ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムト爲シ置クニ在ルヘシト陳述セリ

小村男爵モ主義ニ於テハ「ウ井ッテ」氏ト同意見ナルモ本件ニ關シ確然タル協定ヲ爲スコトヲ必要ト思料シタリ

講和談判ノ進行以上ノ如クナルニ鑑ミ「ウ井ッテ」氏ハ此ノ際直ニ戰鬪ヲ終止セシムルノ措置ヲ執ルコトヲ以テ機宜ニ適スルモノナルヘシトノ意見ヲ發表シ兩國全權委員各其ノ本國政府ニ打電シテ兩國軍隊司令長官ニ必要ナル命令ヲ發シ戰鬪停止ヲ宣言シテ休戰狀態ヲ設クルコトニ關シ互ニ協定セシムル樣建議セムトスルノ案ヲ提出セリ

小村男爵ハ之ニ對シ同男爵ハ電信ヲ以テ日本國政府ノ訓令ヲ請求スヘシト雖モ右訓令

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

ニ接スル迄ハ精確ナル意見ヲ發表スル能ハサル旨ヲ答ヘタリ
會議ハ午後零時半ニ終リタリ

會議ハ午後三時ニ再開セラレタリ
列席者ハ本會議錄首文所載諸氏ノ外「ド、マルテンス」「シポフ」「ポコチロフ」及「エルモロフ」諸氏ナリキ
小村男爵ハ左記ノ諸事項ヲ協定スルノ機宜ニ適スルコトニ關シ會議ノ注意ヲ喚起シ各事項ニ付英文ヨリ成レル一箇ノ覺書ヲ提出シ之ニ添フルニ佛文ノ翻譯ヲ以テシタリ

一 俘虜交換ノ件(附屬書第八號及第九號)
二 兩國間通商關係ノ件(附屬書第十號及第十一號)
三 滿洲ニ於ケル日露兩國鐵道接續事務協定ノ件(附屬書第十二號及第十三號)
四 講和條約批准交換ノ件(附屬書第十四號及第十五號)

前記諸事項ノ討議ヲ開始スルニ先チ兩國全權委員ハ今ヤ將ニ締結セラレムトスル講和條約ノ形式及實質ニ關シ互ニ意見ヲ交換シ右條約ノ完成ヲ成ルヘク迅速ナラシメムカ爲ニ(一)講和條約ハ豫備條約ニ非スシテ本條約タルヘキコト及(二)必要ノ諸規定ニシテ會議ニ於テ協定シ得ヘキモノハ一切之ヲ同條約中ニ掲クヘク獨リ細目ニ亙リ若ハ地方的ノ性質ヲ有スルニ因リ今直チニ協定スルコト能ハサル諸問題ノミヲ追テ兩國特別委員

ヲシテ協定セシムヘク而シテ右特別委員ハ講和條約ニ於テ決定セル主意ニ遵由シテ其ノ協定ヲ爲スヘキ旨ヲ決定セリ
次ニ小村男爵ノ提出ニ係ル第一ノ問題卽チ俘虜交換ノ件(附屬書第八號及第九號)ノ討議ニ移リ「ウヰッテ」氏ハ之ニ關シ日本全權委員ノ提出シタル條文案ニ對シテハ佛文ノ書方ヲ除クノ外主義上何等ノ異議ナキモ俘虜ノ爲ニ日本政府ノ支出シタル直接實費ノ計算、該計算ノ組立及萬一露國官憲ニ於テ右諸文書ヲ檢査スルコトアルヘキ事實等ハ或時日ヲ要スルニ至ルヤモ計リ難キヲ以テ本條ニ於テ前揭費用ヲ仕拂フヘキ期日ヲ今ヨリ確定シ置クコトハ不可能ノ事ニ屬ス但シ前記ノ事務終了後數日ヲ經ハ露國政府ハ直ニ右ノ諸費用ヲ仕拂フノ手續ヲ爲スヘキ旨ヲ陳述シタルニ小村男爵ハ本條中ニハ右ノ費用ハ「成ルヘク速ニ之ヲ仕拂フヘシ」ト記スルコトニ同意ヲ表シ會議ハ遂ニ此ノ文言ヲ採用スルコトニ決定シタリ
第二ノ問題卽チ兩國間通商上ノ關係ヲ規定スルノ件(附屬書第十號及第十一號)ニ關シ日本全權委員ハ其覺書ニ於テ日露間ニ存在シタル通商條約ハ戰爭ノ爲ニ廢止セラレタルヲ以テ講和條約中ニ特別ナル一條ヲ設ケ右兩國ハ追テ新條約ノ締結アル迄兩國通商關係ノ基礎トシテ相互ニ最惠國ノ地位ニ於ケル待遇ヲ與フルノ方法ヲ採用スルヲ要スヘキ旨ヲ陳述セリ
「ウヰッテ」氏ハ戰爭ハ單ニ諸條約ノ執行ヲ停止シタルニ止マルモノナルカ故ニ戰爭ノ一旦終止シタル曉戰爭以前ニ效力ヲ有シタル諸條約ハ直ニ其ノ效力ヲ回復スヘキモノト

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

信スレトモ「ド、マルテンス」氏ノ意見ヲ徴シタキ旨ヲ述ヘタルニ同氏ハ慣例ニ依レハ講和條約中特ニ一條ヲ設ケ戰爭前存在シタル諸條約ハ再ヒ實施セラルヘキ旨ヲ規定スルコトトナリ居レリト説明セリ

小村男爵ハ之ニ對シ叙上ノ一條ヲ特設スルコトノ慣例ハ卽チ國際法ノ原則トシテ平和回復ノ事實カ直チニ戰爭前ノ諸條約ヲ復活セシムルモノトナリ之ニ反シ戰爭ハ諸條約ヲ廢止セシムルモノニシテ單ニ其ノ效力ヲ停止セシムルモノニ非ストスル原則ヲ證明スルモノナルヘシ抑モ本問題解決ノ方法ニ二樣アリ一ハ講和條約中特ニ一條ヲ設ケ戰爭前實施セラレタル條約ヲ復活セシムルニ存シ他ノ一ハ新タニ條約ヲ締結スルニ在リ然レトモ此ノ際一ノ新條約ヲ締結スルヲ以テ兩國通商ノ關係上相互ノ利益ト爲スカ故ニ兩國ハ追テ新條約ヲ締結スル迄ハ前ニ示シタル取極ヲ採用スヘキ旨ヲ講和條約中ニ規定セムコトヲ發議スルナリト説明セリ之ニ對シ「ウ井ッテ」氏ハ舊條約ヲ復活セシメスシテ更ニ新條約ヲ締結スルコトニ付テハ何等故障ヲ有セサレトモ實際ノ便利ヨリ云ヘハ寧ロ講和條約中ノ一條ニ於テ單ニ戰爭前存在シタル諸條約ハ復活シテ新條約ノ締結迄其ノ效力ヲ繼續スヘキ旨ヲ規定スルヲ可トスヘシト陳述シタルニ小村男爵ハ兩國通商上ノ利益ニ鑑ミ舊條約細目ノ諸點中或ハ復活スルヲ得サルヘキモノアルヲ以テ新條約ヲ締結スルコトトシ其ノ締結迄ハ同男爵ノ發議セル方法ニヨリ通商關係ノ取扱ヲ規定スルヲ可トス尤モ今後締結スヘキ新條約ハ主義トシテ舊條約ト大差ナカルヘク日本國政府ノ意思モ亦茲ニ存スル旨ヲ陳述セリ此ニ於テ

「ウ井ッテ」氏ハ小村男爵ノ提議ニ同意ヲ表シ唯今後締結セラルヘキ新條約ノ基礎トシテ千八百九十五年ノ舊條約ヲ採用スヘキ旨ヲ條文中ニ明記スルヲ必要ト考フト陳ヘ小村男爵ハ此ノ思想ヲ本條中ニ插入スルコトヲ承諾シ茲ニ本問題ノ解決ヲ告ケタリ

且「ウ井ッテ」氏ハ本條草案末文ニ揭ケタル浦鹽斯德港ニ於ケル領事任命ノ件ハ別ニ之ヲ攻究スヘキモノニシテ講和條約中ニ之ヲ揭クヘキモノニ非ス加之此ノ發議ヲ受諾スルコトハ露國ニ取リテ一方的讓與ナルニ由リ露國ニ於テ之ヲ諾スルカ爲ニハ露國ハ多分日本ニ於ケル同樣ノ港ニ露國領事ヲ任命スルコトヲ請求セサルヲ得サルコトトナルヘシト陳ヘタルニ小村男爵ハ此ノ問題タルヤ戰爭前久シク日露間ノ交涉事件タリシモノナルカ故ニ此ノ際之ヲ解決セムトシタルモノナリト雖モ本件ノ解決ヲ通商條約談判ノ時ニ讓ルコトニ對シテハ故障ナキ旨ヲ陳ヘ兩國全權委員ハ此ノ意見ヲ容ルルコトニ決セリ

第三ノ問題卽チ滿洲ニ於ケル日露兩國鐵道接續事務協定ノ件(附屬書第十二號及第十三號)ニ關シテハ露國全權委員ハ日本全權委員ノ提案ヲ承諾セリ

第四ノ問題卽チ批准交換ノ件(附屬書第十四號及第十五號)ニ移リ兩國全權委員ハ互ニ其ノ意見ヲ交換シタル後本件ノ完了ヲ速ナラシムル爲左ノ方法ヲ採用スルコトニ決セリ

講和條約締結調印セラレタルトキハ兩國全權委員各〻之ヲ其ノ本國政府ニ提出シ兩國皇帝ノ批准ヲ得ルヤ直チニ日本政府ハ之ヲ在聖彼得堡北米合衆國大使ニ露國政府ハ之ヲ在東京佛國公使ニ電報ヲ以テ通知シ該大使並該公使ヲシテ各〻之ヲ其ノ駐箚國政

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

府ニ通告セシムヘシ而シテ右ノ通告ハ正式批准交換ノ代リトナルヘシ

根本ニ關スル諸問題皆前陳ノ如ク解決セラレタルヲ以テ兩國全權委員ハ講和條約文起草ノ事務ヲ「デニソン」氏其ノ輔佐トシテ安達落合兩氏及「ド、マルテンス」氏及「ポコチロフ」兩氏其ノ輔佐トシテ「ド、プランソン」氏ニ各委任スルコトニ決定シタリ

會議ハ新聞通知案(附屬書第十六號)ヲ協定シタル後午後五時散會セリ

小村壽太郎(記名)

高平小五郎(記名)

セルジ、ウ井ッテ(記名)

ロ ー ゼ ン(記名)

附屬書第一號

日本國全權委員カ八月二十三日ノ會議ニ於テ拾貳億圓ノ報償ヲ以テ薩哈嗹島北部ヲ露國ニ還附セムコトヲ發議シタル四箇條ノ覺書ハ露西亞帝國政府ニ於テ最モ愼重ナル研究ヲ遂ケタル所ナリ

前記覺書ニ對スル回答トシテ露西亞國全權委員ハ今玆ニ日本國全權委員ニ對シ俘虜給養費外ニ何等ノ仕拂ヲ爲スコトハ講和會議開始ノ當初露西亞國ノ列擧シタル重要ノ一基礎ニ戻ルカ故ニ露西亞帝國政府ハ前記提議ヲ承諾スル能ハサル旨ヲ通告スルノ光榮ヲ有ス

露西亞國全權委員ハ又薩哈嗹全島ノ保有カ露西亞國ニ取リテ緊要ナルコトヲ明示セムカ爲甚タ重要ナル數多ノ理由ヲ曩ニ本會議ニ於テ述ヘ置キタリ

然レトモ皇帝陛下ハ極東平和ノ回復ニ資セムトノ誠實ナル希望ヲ有セラルル一新證トシテ薩哈嗹島北部ヲ何等金錢上ノ報償ナクシテ露國ノ保有ニ委スルコトヲ條件トシテ同島南部ヲ日本國ニ讓與スルコトニ同意アラセラル但シ此ノ場合ニ於テ日本國ハ宗谷海峽通航ノ自由ヲ保證シ且其ノ占有スヘキ同島ノ部分ニ於テ何等軍事上措置ヲ執ラサルヘキコトヲ約スヘキモノトス

今ヤ露西亞國全權委員ハ該案ヲ日本國全權委員ノ考量ニ供スルニ際シ其ノ皇帝陛下ノ命令ニ依リ該案ハ協商ヲ遂ケムトスル唯一ノ目的ノ爲ニ露國ノ爲シ得ヘキ最後ノ讓歩ナル旨ヲ日本國全權委員ニ聲明スルノ光榮ヲ有ス

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

附屬書第二號

日本國政府ハ軍費ノ拂戻ヲ要求スルニ正當ナル理由ヲ有スルコトヲ確信スト雖モ露西亞國政府カ該要求ヲ考量スルコトヲ領シ且日本國政府カ該要求ヲ固持スルヨリ必然生スヘキ結果ヲ考量シ一ハ人道ト文明トノ爲一ハ日露兩國眞正ノ利益ニ鑑ミ玆ニ日本國ノ既ニ行ヒタル薩哈嗹島占領ヲ既成ノ事實トシテ露西亞國カ承認スルコトヲ條件トシテ前記軍費拂戻ノ要求ヲ撤回スヘキコトヲ日本國全權委員ニ訓令セリ

附屬書第三號

附屬書第二號ト同文(附屬書第二號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第四號

下名ノ日本國皇帝陛下ノ全權委員及露西亞國皇帝陛下ノ全權委員ハ本日調印ノ講和條約第二條ノ規定ヲ實行セムカ爲ニ左ノ追加約款ヲ協定セリ

日本國及露西亞國ハ滿洲及其ノ附近ニ於ケル兩國軍隊ヲ左記ノ三期ニ分チ全然且同時ニ撤退スヘキコトヲ互ニ約ス

第一期　講和條約批准後十日以內ニ撤兵ヲ開始シ四箇月以內ニ終ルヘキコト

日本軍ハ　新民廳奉天撫順興京懷仁楚山ノ線以內及豆滿江右岸ニ撤退スヘキコト

露西亞軍ハ　伯都訥桃賴昭山河屯額木索琿春ノ線以內及豆滿江左岸ニ撤退スヘキコト

第二期　第一期終了ヨリ四箇月以內ニ撤兵ヲ終ルヘキコト

日本軍ハ　牛家屯大石橋岫巖鳳凰城安平河口ノ線以內ニ撤退スヘキコト

露西亞軍ハ　胡拉爾古齋々哈爾黑爾根愛琿ノ線以內ニ撤退スヘキコト

第三期　第二期終了ヨリ二箇月以內ニ撤兵ヲ終ルヘキコト

日本軍ハ　遼東租借地及韓國國境內ニ撤退スヘキコト

露西亞軍ハ　露國領土內ニ撤退スヘキコト

前記追加約款ハ講和條約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

附屬書第五號

附屬書第四號ト同文(附屬書第四號英文ノ佛譯ナリ)

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

附屬書第六號

日本國全權委員ハ滿洲ニ於ケル日露兩國鐵道ニ對シ必要ナル保護ヲ加ヘ且誤解ノ原由ヲ避ケムカ爲ニ講和條約附屬議定書ヲ以テ左ノ如ク一ノ協定ヲ爲サムコトヲ提議ス

清國ニ於テ自ラ其ノ責務ニ任シ且之ヲ實行シ得ルニ至ル迄日露兩帝國政府ハ各〻其ノ滿洲鐵道ノ線路、財産及運輸ニ必要ナル保護ヲ加ヘムカ爲ニ鐵道守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保ス但シ前記兩國政府ハ右守備兵ハ如何ナル場合ニ於テモ鐵道一「キロメートル」ニ付五人ヲ超過セサルヘキコトヲ互ニ約ス

附屬書第七號

附屬書第六號ト同文(附屬書第六號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第八號

本條約實施ノ後成ルヘク速ニ一切ノ俘虜ハ互ニ之ヲ還附スヘシ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ各俘虜ヲ引受クヘキ一名ノ特別委員ヲ任命スヘシ一方ノ政府ノ收容ニ係ル一切ノ俘虜ハ他ノ一方ノ政府ノ特別委員又ハ正當ニ其ノ委任ヲ受ケタル代表者ニ引渡シ同委員又ハ其ノ代表者ニ於テ之ヲ受領スヘク而シテ其ノ引渡及受領ハ豫メ受領國ノ特別委員ニ通知スヘキ便宜ノ人員及引渡國ニ於ケル一箇若クハ數箇ノ便宜ノ出入地ニ於テ之ヲ行フヘシ

日本國政府及露西亞國政府ハ俘虜引渡完了ノ後……日以內ニ俘虜ノ捕獲若ハ投降ノ日ヨリ死亡又ハ引渡ノ時ニ至ルマテ之カ保護給養ノ爲ニ各〻貧擔シタル費用ノ計算書ヲ互ニ提出スヘシ同計算書交換ノ後露西亞國ハ……日以內ニ日本國カ前記ノ用途ニ支出シタル實際ノ金額ト露西亞國カ同樣ニ支出シタル實際ノ金額トノ差額ヲ日本國ニ拂戻スヘキコトヲ約ス

附屬書第九號

附屬書第八號ト同文(附屬書第八號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第十號

日露兩國間一切ノ通商條約ハ戰爭ノ爲廢止セラレタルヲ以テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ新ニ通商航海條約ヲ締結スルニ至ルマテノ間兩國通商關係ノ基礎トシテ相互ニ最惠國ノ地位ニ於ケル待遇ヲ與フルノ方法ヲ採用スヘキコトヲ約ス而シテ輸入稅及輸出稅、稅關手續、通過稅及噸稅並一方ノ代辨者、臣民及船舶ニ對スル他ノ一方ノ領土ニ於

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記ノ方法ニ依ル又露西亞帝國政府ハ浦鹽斯德港ニ駐在スヘキ日本國正式領事ノ任命ヲ諾ス

附屬書第十一號

附屬書第十號ト同文(附屬書第十號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第十二號

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ交通及運輸ヲ增進シ且之ヲ便易ナラシムルノ目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル其ノ接續鐵道業務ヲ規定セムカ爲成ルヘク速ニ別約ヲ締結スヘシ

附屬書第十三號

附屬書第十二號ト同文(附屬書第十二號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第十四號

本條約ノ全文ハ裁可ヲ奏請スル爲電信ヲ以テ日本國皇帝陛下及露西亞國皇帝陛下ニ上奏スヘシ而シテ右裁可アリタル事實ノ證明書ハ……ニ於テ日露兩國代表者間ニ成ルヘク速ニ上記ノ日附後……日以內ニ之ヲ交換スヘシ上記裁可ハ批准ニ代ハルヘキモノニシテ一切ノ關係ニ於テ批准ト同一ノ價値及效力ヲ有シ本條約ハ右證明書ノ日附ヨリ全部ヲ通シテ完全ノ效力ヲ生スヘシ

附屬書第十五號

附屬書第十四號ト同文(附屬書第十四號英文ノ佛譯ナリ)

附屬書第十六號

八月二十九日午前ノ會議ニ於テ一切ノ問題ハ主義上協定セラレタルヲ以テ細目ニ亙ル諸點ノ討議ニ移ルコトニ決シ同日午後ノ會議ニ於テ細目ヲ討議シタル後講和條約起草ノ事務ヲ日本國外務省附「コンセイエー」、ブリヴエー」「ド、マルテンス」氏及露西亞國外務省法律顧問「デニソン」氏ニ委任シ成ルヘク速ニ其ノ事務ヲ完成セシムルコトトナシタリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

講和會議錄第十一號

八月二十九日ノ會議ニ於テ主義上既ニ協議決定ヲ經タル諸問題ニ關シ右決定ヲ條約ニ表ハスヘキ形式及其ノ文言上尙兩國全權委員ノ協議ヲ要シタルモノアリタルニ付同委員ハ九月一日及同二日ノ兩日ニ於テ數回非正式會議ヲ開キ其ノ結果トシテ左記ノ事項ヲ協定シタリ

第一　滿洲撤兵方法ニ關スル重要ノ基礎ハ講和條約追加約款中ノ一箇條ニ於テ之ヲ規定スヘキコト而シテ其ノ文言ハ兩國全權委員ニヨリテ決定セラレタリ(附屬書第一號)

第二　薩哈嗹島問題ハ講和條約中ノ二箇條及追加約款中ノ一箇條ニ於テ之ヲ規定スヘキコト而シテ右三箇ノ文言モ同シク全權委員ニヨリテ決定セラレタリ(附屬書第二號)

左記ノ諸事項ハ各〻講和條約中ノ一箇條ニ於テ之ヲ規定スルコト

第三　新通商條約ノ締結ニ至ルマテ相互ニ最惠國ノ地位ニ於ケル待遇ヲ與フル主義ヲ採用スヘキコト(附屬書第三號)

第四　俘虜交換(附屬書第四號)

第五　講和條約批准方法(附屬書第五號)

第六　接續鐵道業務協定(附屬書第六號)

右ノ外兩國全權委員ハ講和條約佛文第二條ニ用井タル「コントロール」ナル語ハ同條約英文第二條ニ用井タル「コントロール」ナル語ト同シク廣キ意義ヲ以テ之ヲ解スヘキモノナ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

ルコトヲ聲明スヘキコトニ一致セリ

明治三十八年九月五日「ポーツマス」ニ於テ

小村壽太郎(記名)

高平小五郎(記名)

セルジ、ウ井ッテ(記名)

ロ―ゼン(記名)

附屬書第一號

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ同時ニ且講和條約ノ實施後直ニ滿洲ノ地域ヨリ各其ノ軍隊ノ撤退ヲ開始スヘキコトヲ互ニ約ス而シテ講和條約實施ノ日ヨリ十八箇月ノ期間內ニ兩國ノ軍隊ハ遼東半島租借地以外ノ滿洲ヨリ全然撤退スヘシ

前面陣地ヲ占領スル兩國軍隊ハ最先ニ撤退スヘシ

兩締約國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道線路ヲ保護セムカ爲守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保ス

該守備兵ノ數ハ一「キロメートル」毎ニ十五名ヲ超過スルコトヲ得ス而シテ日本國及露西亞國軍司令官ハ前記最大數以內ニ於テ實際ノ必要ニ顧ミ之ニ使用セラルヘキ守備兵ノ數ヲ雙方ノ合意ヲ以テ成ルヘク少數ニ限定スヘシ

滿洲ニ於ケル日本國及露西亞國軍司令官ハ前記ノ原則ニ從ヒ撤兵ノ細目ヲ協定シ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ十八箇月ヲ超ヘサル期間內ニ撤兵ヲ實行セムカ爲雙方ノ合意ヲ以テ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

附屬書第二號

露西亞帝國政府ハ薩哈嗹島南部及其ノ附近ニ於ケル一切ノ島嶼並該地方ニ於ケル一切ノ公共營造物及財產ヲ完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與ス其ノ讓與地域ノ北方境界ハ北緯五十度ト定ム該地域ノ正確ナル經界線ハ本條約ニ附屬スル追加約款第

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380

二ノ規定ニ從ヒ之ヲ決定スヘシ

日本國及露西亞國ハ薩哈嗹島又ハ其ノ附近ノ島嶼ニ於ケル各自ノ領地内ニ堡壘其ノ他之ニ類スル軍事上工作物ヲ築造セサルコトニ互ニ同意ス又兩國ハ各宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由航海ヲ妨礙スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

……

日本國ニ讓與セラレタル地域ノ住民タル露西亞國臣民ニ付テハ其ノ不動産ヲ賣却シテ本國ニ退去スルノ自由ヲ留保ス但シ該露西亞國臣民ニ於テ讓與地域ニ在留セムト欲スルトキハ日本國ノ法律及管轄權ニ服從スルコトヲ條件トシテ完全ニ其ノ職業ニ從事シ且財産權ヲ行使スルニ於テ支持保護セラルヘシ日本國ハ政事上又ハ行政上ノ權能ヲ失ヒタル住民ニ對シ前記地域ニ於ケル居住權ヲ撤回シ又ハ之ヲ該地域ヨリ放逐スヘキ充分ノ自由ヲ有ス但シ日本國ハ前記住民ノ財産權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

……

兩締約國ニ於テ各任命スヘキ同數ノ人員ヨリ成ル境界劃定委員ハ本條約實施後成ルヘク速ニ薩哈嗹島ニ於ケル日本國及露西亞國領地間ノ正確ナル境界ヲ永久ノ方法ヲ以テ實地ニ就キ劃定スヘシ該委員ハ地形ノ許ス限リ北緯五十度ヲ以テ境界線トナスコトヲ要ス若シ何レカノ地點ニ於テ同緯度ヨリ偏倚スルノ必要ヲ認ムルトキハ他ノ地點ニ於

ケル對當ノ偏倚ニ依リテ之ヲ塡補スヘシ該委員ハ讓與中ニ包含セラルル附近島嶼ノ表及明細書ヲ調製スルノ任ニ當リ且讓與地域ノ境界ヲ示ス地圖ヲ調製シ之ニ記名スヘシ該委員ノ事業ハ兩締約國ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

附屬書第三號

日露通商航海條約ハ戰爭ノ爲廢止セラレタルヲ以テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ現下ノ戰爭以前ニ效力ヲ有シタル條約ヲ基礎トシテ新タニ通商航海條約ヲ締結スルニ至ルマテノ間兩國通商關係ノ基礎トシテ相互ニ最惠國ノ地位ニ於ケル待遇ヲ與フルノ方法ヲ採用スヘキコトヲ約ス而シテ輸入稅及輸出稅稅關手續通過稅及噸稅並一方ノ代辨者臣民及船舶ニ對スル他ノ一方ノ領土ニ於ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記ノ方法ニ依ル

附屬書第四號

本條約實施ノ後成ルヘク速ニ一切ノ俘虜ハ互ニ之ヲ還附スヘシ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ各俘虜ヲ引受クヘキ一名ノ特別委員ヲ任命スヘシ一方ノ政府ノ收容ニ係ル一切ノ俘虜ハ他ノ一方ノ政府ノ特別委員又ハ正當ニ其ノ委任ヲ受ケタル代表者ニ引渡

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

シ同委員又ハ其ノ代表者ニ於テ之ヲ受領スヘク而シテ其ノ引渡及受領ハ引渡國ヨリ豫メ受領國ノ特別委員ニ通知スヘキ便宜ノ人員及引渡國ニ於ケル便宜ノ出入地ニ於テ之ヲ行フヘシ

日本國政府及露西亞國政府ハ俘虜引渡完了ノ後成ルヘク速ニ俘虜ノ捕獲又ハ投降ノ日ヨリ死亡又ハ引渡ノ時ニ至ルマテ之カ保護給養ノ爲ニ各〻負擔シタル直接費用ノ計算書ヲ互ニ提出スヘシ同計算書交換ノ後露西亞國ハ成ルヘク速ニ日本國カ前記用途ニ支出シタル實際ノ金額ト露西亞國カ同樣ニ支出シタル實際ノ金額トノ差額ヲ日本國ニ拂戻スヘキコトヲ約ス

附屬書第五號

本條約ハ日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ニ於テ批准セラルヘシ該批准ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ本條約調印ノ日ヨリ五十日以內ニ東京駐箚佛蘭西國公使及聖彼得堡駐箚亞米利加合衆國大使ヲ經テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ニ各〻之ヲ通告スヘシ而シテ其ノ終ノ通告ノ日ヨリ本條約ハ全部ヲ通シテ完全ノ效力ヲ生スヘシ正式ノ批准交換ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ

附屬書第六號

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ交通及運輸ヲ增進シ且之ヲ便易ナラシムルノ目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル其ノ接續鐵道業務ヲ規定セムカ爲成ルヘク速ニ別約ヲ締結スヘシ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

講和最終會議錄（第十二號）

明治三十八年九月五日ノ會議

午後三時五十分開會

列席者

日本國　講和全權委員小村男爵高平氏及「デニソン」氏佐藤氏山座氏安達氏立花陸軍大佐竹下海軍中佐落合氏本多氏埴原氏及小西氏

露西亞國　講和全權委員「ウ井ッテ」氏「ローゼン」男爵及「ド、マルテンス」氏「ポコチロフ」氏「エルモロフ」陸軍少將「ルシーヌ」海軍中佐「ド、ブランソン」氏「コロストヴェッツ」氏及「ナボコフ」氏

日露兩國全權委員ハ佛文ヨリ成レル講和條約書二部及英文ヨリ成レル講和條約書二部及追加約款ニ記名調印ヲ了シタル上各、佛文ヲ檢閲シ其ノ互ニ一致スルヲ認メ右條約書及追加約款ニ記名調印ヲ了シタル上各、佛文ヨリ成レル講和條約書一部及英文ヨリ成レル講和條約書一部ヲ領取セリ

明治三十八年九月五日「ポーツマス」ニ於テ

小村壽太郎（記名）

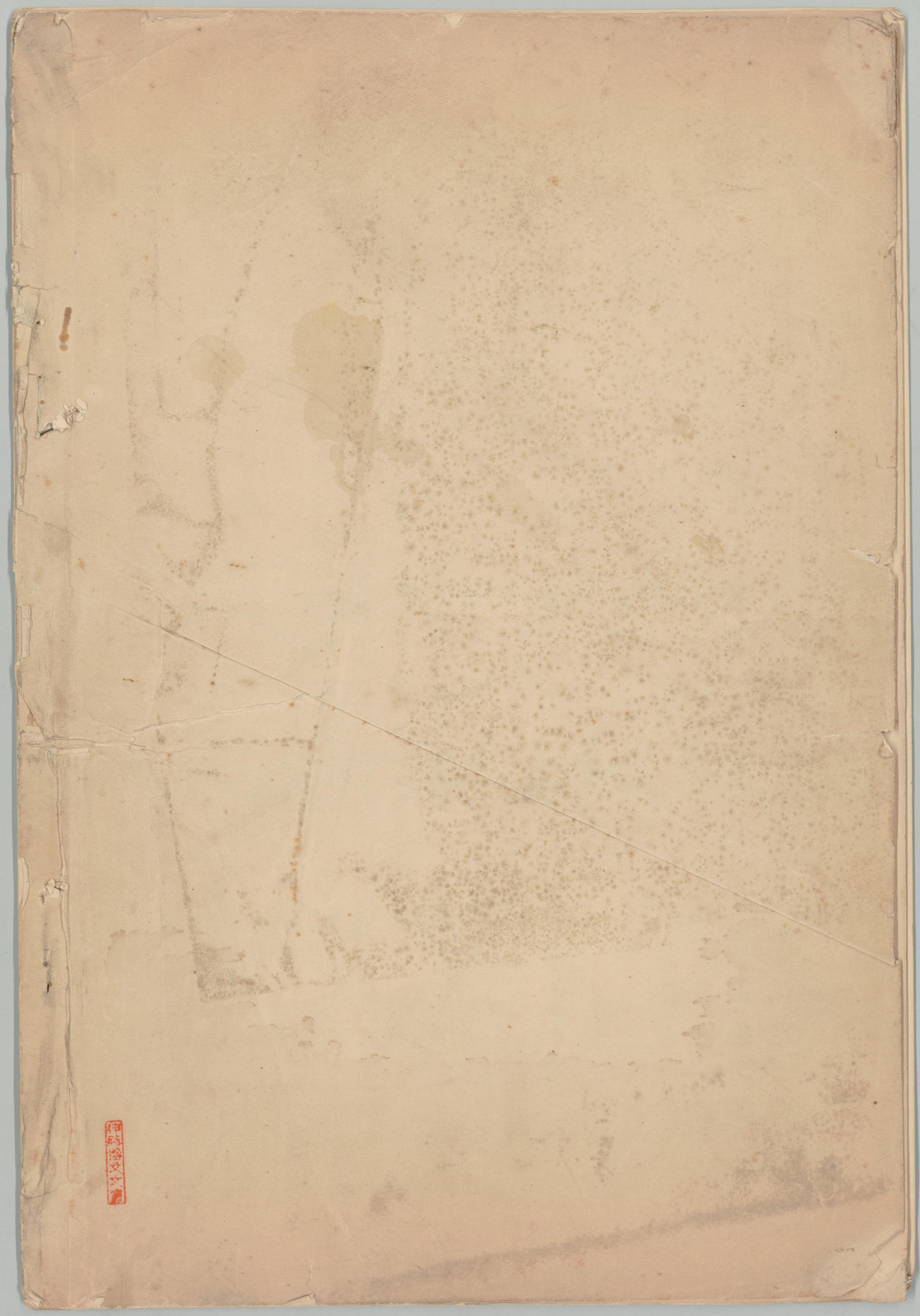
高平小五郎（記名）

セルジ、ウ井ッテ（記名）

ロ　ー　ゼ　ン（記名）

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 380



国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 380